

# 精神衛生資料

昭和 28 年  
(1953)

国立精神衛生研究所

## 緒 言

精神衛生対策の第一歩は、精神衛生に関する各種の問題について実情を正確に把握することであり、必要な調査並びに資料の蒐集は実にその根底をなすものである。わが国においても精神衛生関係の資料は必ずしも乏しいとは言えないが、その関連する分野が広く、その施策も厚生、文部、法務、労働等の各省にわたっているために、これまで以上の目的に沿った計画的蒐集が行われていなかった。

国立精神衛生研究所では、その事業の一部として、広く内外の精神衛生関係の資料の蒐集整理につとめている。この「精神衛生資料」は昭和27年4月本研究所の開所式に当り、来会者のため展示せられた資料の一部に補足を加えたものである。

もとより匆忙の間に成つたものであり、当然収録さるべき資料、文献であつて洩れたものも少なくないと思う。又極めて必要な資料でありながら、その方面の調査が未着手、あるいは不備で収録できなかつたものも少くなかつた。しかし、ここに収録したもののみでも各方面に寄与するところ少なくないと考え、不備を知りつつもとりあえず印刷に附して、関係方面に配布することにした。

本資料は各方面の御援助を得て、毎年これを増補訂正してゆく計画であるが、遺漏誤謬については各方面の御叱正を待つと共に、必要有益な資料文献があれば本研究所宛御恵送いただきたい。

昭和28年3月

# 目 次

## 緒 言

### I 精神障害者

1. 精神障害者の出現頻度	1
(a) 一 斉 調 査 法	1
(b) 穿 刺 法	2
2. 内因性精神病の遺伝予後	2
(a) 蒐 集 法 (その1)	3
(b) 蒐 集 法 (その2)	3
(c) 分 別 法 (精神分裂病)	3
(d) 分 別 法 (躁 鬱 病)	4
(e) 分 別 法 (真 性 癲 癇)	4
(f) 分 別 法 (遺 伝 性 精 神 薄 弱)	4
(g) 一卵性双生児における精神障害	4
3. 精神病院入院患者の病名別比率	5
4. 精神薄弱者の社会的予後	5
(a) 社会的な生活能力 (男 子)	6
(b) 社会的な生活能力 (女 子)	6
(c) 生存者の現在の境遇	6
(d) 結婚年齢, 男女の比較	7
(e) 各型別における結婚率	7
(f) 結婚後年数と挙子数との関係	7
(g) 就 学 程 度	7
(h) 精神薄弱者の経済状態 (アメリカの調査)	8
(i) 精神薄弱者の職業の種類 (アメリカの調査)	8

### II 精神衛生に関する諸問題

5. 精神身体医学的に見た内科患者	9
6. 不 就 学 児 童	10
(a) 不 就 学 児 童 ・ 生 徒 数	10
(b) 東京市不 就 学 児 童 の 精 神 医 学 的 診 断	10
7. 街 娼	11
(a) 街娼の精神医学的診断別	11

(b) 街娼の知能分布	11
8. 浮浪児及び浮浪者	12
(a) 浮浪児の浮浪動機	12
(b) 家出浮浪児の家庭状況	12
(c) 浮浪児の診断別	12
(d) 浮浪児の知能	13
(e) 浮浪児収容保護状況	13
(f) 浮浪者及び乞食の精神医学的調査	14
9. 犯罪少年及び虞犯少年	15
(a) 犯罪少年の年齢層別比較	15
(b) 少年虞犯行為年齢別	15
(c) 少年虞犯行為処分別	15
(d) 少年虞犯行為別	15
10. 麻薬及び覚醒剤	16
(a) 麻薬事犯検挙件数及び人員数	16
(b) 覚醒剤違反検挙件数、人員及び違反對象物資数量	16
11. 小学校における精神衛生	17
(a) 教師の所見(学校別)	17
(b) 調査児童の診断(学校別)	18
(c) 無断欠席の主要原因	18
(d) 緘黙の主要原因	19
12. 自殺	19
自殺者の累年比較表	19
13. 離婚	19
(a) 申立人別	19
(b) 初再婚別	19
(c) 婚姻継続年数別	19
(d) 原因別	20

## Ⅱ 施設及び職員

14. 精神病院	20
(a) 全国精神病院数及び病床数	20
(b) 各都道府県における精神病院病床数比率	22
(c) アメリカにおける精神病院数及び病床数	22
(d) 世界各国における精神病院数及び収容患者の対人口比率	22
15. 精神科関係職員数	23
(a) 全国精神病院における業務種別従業者数	23
(b) 精神衛生鑑定医数	23

(c) アメリカにおける精神科関係職員数	23
16. 全国精神衛生相談所一覧表	24
17. 全国児童相談所一覧表	25
18. 児童福祉施設	28
(a) 児童福祉施設数及び収容定員	28
(b) 教護院一覧表	28
(c) 精神薄弱児施設一覧表	30
19. 少年鑑別所及び矯正保護施設	31
(a) 少年鑑別所一覧表	31
(b) 少年鑑別所及び矯正保護施設数	32
20. 全国特殊学級数	32
(a) 小学校の部	32
(b) 中学校の部	33

附 録

21. 精神衛生関係団体一覧	34
(a) 世界精神保健連盟について	34
(b) 学術研究団体	35
(c) 普及団体, その他	35
22. 学 界 動 向	35
(a) 精神衛生関係図書	35
(b) 精神衛生関係論文一覧	33
(c) 学会発表業績一覧	39
23. 精神衛生関係の年間主要記事	44
24. 精神衛生関係年表	45

# [ 精神 障 害 者 ]

## 1. 精神障害者の出現頻度

全人口における精神障害者数を推定するには、(1)精神病院外来患者数より推定する方法、(2)一斉調査法、(3)穿刺法等がある。この中、科学的方法として、比較的信頼し得るのは一斉調査法と穿刺法であろう。一斉調査法というのは、一定の地域を選び、その地域内の住民について一斉調査を行い、その結果得られた精神障害者数からその発現率を計算する方法である。又穿刺法というのは、一般人口を代表すると考えられるような適当な材料（例えば進行麻痺患者の配偶者、内科入院患者等）を選んで、これを発端者とし、その一定の係累（例えば同胞）について精神障害者の発現率を調査する方法である。

ここには以上2つの方法によって、わが国で行われた調査の結果を収録した。挙げられた数字はもとより区々であるが、2つの方法によって得られた数字の間に著しく大きな差のない点にも注目されたい。これによって、わが国における精神障害者の大体の数は、ある程度推定できよう。

ただ一斉調査法は、調査が容易であるという理由から離島、山間の部落等が調査地域として多く選ばれているので、それがただちに一般人口を代表しているかどうかという点に問題があろう。

取上げられた精神障害者のうち、精神病質はその範囲を明確に定め難いので、得られた数字が信頼し難いのは止むを得ない。精神薄弱についても、ある程度同じことが言える。

(a) 一 斉 調 査 法

調査報告者	調査地域	年	被の調査者数	狭義精神病					精神病質		精神薄弱	
				全人口比%	補正精分	正裂	障癖	度真類	%進	全人口比%	補正頻度%	全人口比%
Brugger	独 Thüringen地方 Allgäu地方の5 逸村落	1931	37,501	0.59	0.38	0.11	0.08	0.05	—	—	—	—
		1933	5,425	0.90	0.41	0.42	0.15	0.	—	—	—	—
Strömgren	丁 Bornholm 島上 抹の1村落	1938	913	1.80	0.47	0.	0.41	0.	—	—	—	—
東京大学 神 経 科 教 室*	東 京 都 八 丈 島	1910	8,313	0.68	0.91	0.28	0.10	0.13	—	0.05	3.6	0.08
		1911	5,236	0.91	0.64	0.57	0.43	0.	—	1.61	—	4.83
	東 京 都 池袋の1部	1941	2,712	1.22	0.49	0.23	0.35	0.33	—	1.04	—	1.18
	長 野 県 小 諸	1911	5,207	1.08	0.50	0.87	0.40	0.07	—	0.36	—	1.42
	以上 4地域の平均	—	21,525	0.90	0.69	0.49	0.29	0.10	—	—	1.12	1.69
九州大学 精 神 科 教 室	五 家 荘	1941	1,322	—	0.68	0.	0.12	0.	—	—	—	—
	五家荘隣接部落	1941	1,005	—	1.09	0.	0.62	0.33	—	—	—	—
	里 島	1941	2,115	—	0.59	0.	0.23	0.20	—	—	—	—
	以上 3地域の平均	1941	4,443	—	0.74	0.	0.29	0.17	—	—	—	—
東大脳研	神奈川県村岡村	1941	1,704	—	0.98	0.37	0.16	0.21	—	—	—	1.44
厚生省 (中間報告)	埼玉県今宿村	1941	—	1.54	0.99	0.14	0.65	0.05	1.10	—	2.66	—
	千葉県椎名村	1941	—	1.14	—	—	—	—	0.90	—	1.42	—
厚生科学 研 究 所	兵庫県定島群島 中の坊勢島	1942	1,651	0.97	0.52	0.14	0.89	0.	0.18	—	0.48	—
	東京都檜原村	1943	1,758	0.85	0.82	0.86	0.18	0.39	—	—	6.17	—

注(1) 補正頻度とは、調査人口中、発病危険年齢域未満の人数はすべて0、危険年齢域を過ぎた者は1、危険年齢域内の者は $\frac{1}{2}$ として扱い、かくして得られた総数(これを関係数という)に対する発見病者数の比率をいう(この方法を Weinberg の簡便法という)。

(2) 発病危険年齢域とは、各疾患が発病し易い年齢の範囲を指す。その定め方は報告者によつて、いくらか相違する。例えば東大の報告では、精神分裂病(16—40才)、躁鬱病(21—50才)、癲癇(5—50才)、進行麻痺(31—50才)とし、又精神病質(11才以上)、精神薄弱(11才以上の白痴乃至高度痴愚)としている。

(3) 精神薄弱中、八丈島の数は就学児童 1,629名中のもの、又檜原村の数は学童 389名中のもの。

\* 内村祐之他 7名：精神経誌，44巻，10号，昭和15

津川武一他 6名：精神経誌，46巻，4号，昭17

秋元波留夫他 3名：精神経誌，47巻，7号，昭18

### (b) 穿 刺 法

調査者	発端者の種類	発端者数	発除胞端い数 者た を同	精神分裂病			躁鬱病			真性癲癇			進行麻痺		
				関係数 危険年齢 (16—40)	患者 数	百分 比	関係数 危険年齢 (21—50)	患者 数	百分 比	関係数 危険年齢 (5—30)	患者 数	百分 比	関係数 危険年齢 (31—50)	患者 数	百分 比
* 吉松	麻痺性痴呆 患者の配偶者	100	500	254.5	3	1.18	198.0	1	0.55	327.5	1	0.26	143.5	1	0.
* 坂名城	東京大学内 科入院患者	220	1,000	509.0	4	0.79	396.5	1	0.25	652.5	2	0.31	285.0	2	0.
* 坂名城	那覇市病院 入院患者	122	604	286.5	1	0.41	170.5	1	0.95	331.5	0	0.	88.0	1	1.14
* 大山	小樽市病院 入院患者	150	855	398.0	2	0.50	285.0	0	0.	535.0	2	0.37	184.5	1	0.54
* 太田	秩田市病院 入院患者	200	1,156	512.5	4	0.78	388.0	0	0.	684.0	3	0.43	240.5	1	0.41
合計		792	4,115	1,910.5	14	0.73	1,438.0	3	0.21	2,530.5	8	0.32	941.5	6	0.64

\* 内村 祐之：精神経誌，47巻，6号，昭18

吉松捷五郎：精神経誌，47巻，6号，昭18

坂名城政順：精神経誌，47巻，6号，昭18

坂名城政順：精神経誌，47巻，6号，昭18

大山恭次郎：精神経誌，47巻，6号，昭18

太田 清之：精神経誌，47巻，6号，昭18

## 2. 内因性精神病の遺伝予後\*

遺伝形式などの理論的研究は精神疾患については非常に困難であるので、これとは全く別個に、多数の精神病患者(すなわち発端者)の係累について調査し、いかなる係累に、いかなる比率で同種の精神病が発現するかを、全く経験的、統計的に研究する方法がドイツの Rüdin 一派によって行われた。これが遺伝予後である。その結果は配偶者の選定、その他優生学的対策の際の参考となるものである。

蒐集法というのは、多数の精神病患者、例えば精神分裂病患者を発端者とし、それらの家系について、多数の子、孫、従同胞、甥姪等を調査し、それらの係累における同種精神病の発現率を算出する方法である。又分別法とは発端者の係累の遺伝予後を両親の精神素質の観点から類別するものである。

\* Luxenburger, Hans: Zentralblatt für die gesamte Neurologie und Psychiatrie.  
81, 83 (1933), 83, 84 (1937)

(a) 蒐集法 (その1)

病 種	精神分裂病	躁 鬱 病	真 性 癲 癇	遺 伝 性 精 神 薄 弱
発病危険年齢域	16-40才	21-50才	0-20才	(諸家の統計)
病者の	現象型(因子型)	現象型(因子型)	現象型(因子型)	
子	16.4%(22.2)%	24.4%(28.0)%	11.0%(12.2)%	14.3% ~ 57.9%
孫	3.0 (4.1)	— (—)	— (—)	18.0
同 胞	10.8 (—)	12.7 (15.9)	4.1 (4.6)	13.1 ~ 37.6
従 同 胞	1.8 (2.4)	2.5 (3.1)	— (—)	12.2
甥 姪	1.8 (2.4)	2.4 (3.0)	1.2 (1.3)	7.0 ~ 31.6
甥 姪 の 子	1.6 (2.2)	— (—)	— (—)	6.4
一 般 出 現 率	0.85 (1.2)	0.44 (0.55)	0.3 (0.3)	(附)は日本人に於けるもの 吉松, 波名城, 大山, 太田の4氏による。
(平均成員に於ける精神疾患負因負荷率)	(附) 0.73	(附) 0.21	(附) 0.32	

(b) 蒐集法 (その2)

病 者 の	分裂病質	循環病質	癲癇病質
	現象型(因子型)	現象型(因子型)	現象型(因子型)
子	32.6% (44.2)%	13.4% (16.8)%	18.5% (20.6)%
孫	13.6 (18.7)	—	—
同 胞	—	2.7 (3.4)	16.5 (18.3)
従 同 胞	10.2 (13.4)	1.0 (1.3)	—
甥 姪	5.1 (6.9)	2.0 (2.5)	9.1 (10.1)
甥 姪 の 子	1.9 (2.6)	—	—
平 均 成 員	2.9 (3.9)	0.8 (1.0)	7.0 (7.8)

(c) 分別法 (精神分裂病)

	精神分裂病者の孫			病者の甥姪			病者の従同胞		
	常人	精神分裂病	分裂病質	常人	精神分裂病	分裂病質	常人	精神分裂病	分裂病質
両親共に分裂病質のとき	—	—	—	77.8	11.0	11.0	26.3	—	52.6
片親が不純接合体, 片親が分裂病質	71.4	4.8	23.8	—	—	—	—	—	—
片親だけが分裂病質のとき	59.2	3.1	7.1	67.0	2.0	11.0	65.3	2.1	14.7
両親共に分裂病質でないとき	67.0	1.4	4.7	87.4	0.9	2.7	71.5	0.96	7.7



(d) 分別法 (躁鬱病)

	躁鬱病者の子		病者の甥姪		
	躁鬱病	循環病質	躁鬱病	躁鬱病の疑い	循環病質
両親共に躁鬱病	38.7%	50.0%	—	—	—
片親又は両親が躁鬱病或は循環病質	—	—	5.0	3.3	5.0
片親が躁鬱病, 片親が循環病質	29.6	17.9	—	—	—
片親が躁鬱病, 片親が常人	30.6	14.5	—	—	—
片親が他種の精神病質	—	—	—	—	4.1
両親共に常人	—	—	2.0	1.0	2.7

(e) 分別法 (真性癲癇)

	癲癇者の甥姪		
	常人	癲癇又は癲癇病質	その他の異常
両親共に癲癇病質	25.0%	37.5%	37.5%
片親が癲癇病質	60.3	13.8	25.9
両親共癲癇病質でないとき	75.6	5.9	18.6

(f) 分別法 (遺伝性精神薄弱)

	同胞の精神薄弱 (Brugger による)	落第生であつたものの子が精神薄弱 (Juda による)
	両親共精神薄弱	93.2%
片親が精神薄弱	41.3	29.1
両親共精神薄弱ではないとき*	17.8	25.0

\* 但し少くとも片親は落第生であつたもの

(g) 一卵性双生児における精神障害

	組数計	一致組数 (百分率)	不一致
精神分裂病	63	52 (82.5)%	11
躁鬱病	33	31 (93.9)	2
癲癇	10	6 (60.0)	4
精神病質	22	14 (63.6)	8
精神薄弱	12	11 (91.7)	1

注 現象型と因子型—実際に発病している病者として認められたものが現象型である。又発病していないものをも含めて、当該遺伝疾患の遺伝因子型を荷っているものが因子型と呼ばれる。因子型の何%が発病して現象型となるかは、一卵性双生児の一致度 (g表) から計算される。逆に現象型の出現率から因子型の率が計算できる。

### 3. 精神病院入院患者の病名別比率

わが国およびアメリカの精神病院入院患者の病名別を一括して次に掲げる。分類の方法がちがうので、厳密な比較はできないが、アメリカにおいては脳動脈硬化、老年性痴呆等、老人性の精神病が著しく多いことが目立つであろう。これはアメリカの個人主義的生活態度とわが国家族制度との差異によるものであろうか。その他アルコール中毒、精神神経症の多いことも注目を惹く。

	我国全国精神病室入院 患者病名別 (菅氏)* (1935年)	東京都立松沢病院新入 院患者病名別 (自1943年11月 至1945年10月)	アメリカ精神病院新入 院患者病名別 ** (1945年)
	19,148 名	887 名	114,535名
	%	%	%
頭 部 外 傷 性 精 神 障 害	—	0.2	—
脳 病 性 精 神 障 害	1.4	0.2	—
中 毒 性 精 神 障 害	4.5	1.6	—
内 アル コ ー ル 中 毒	1.9	0.3	4.2
伝 染 病 性 精 神 障 害	0.4	0.8	—
進 行 麻 痺	21.4	14.8	5.7
脳 動 脈 硬 化 等	—	1.6	18.4
老 年 性 痴 呆 病	2.4	1.8	11.1
精 神 分 裂 病	44.7	57.5	26.1
癲 癇 病	1.7	5.2	—
躁 鬱 病	14.9	6.0	10.8
偏 執 病, 其 他	0.4	—	—
精 神 神 經 症	3.1	1.8	6.3
精 神 病 質	1.9	1.8	—
精 神 薄 弱	1.9	6.8	—
其 他	1.4	0.3	17.4

\* 菅修：精神誌，41巻，10号，昭12

\*\* 'Statistics Pertinent to Psychiatry in the United States', Compiled by Hospital Committee(1949)

### 4. 精神薄弱者の社会的予後

近来、精神薄弱児の特殊教育に対する関心が著しく高まってきたが、かれらの将来、すなわち社会的予後の問題は、親にとっても、教育者にとっても重大関心事であろう。

この点に関する研究は内外共に少ないが、次にその主要なものを掲げる。街娼、浮浪児等の表に見られる如く、かれらの取扱いを誤れば、いろいろな社会的問題を起し易いのであるが、教育、又は環境の如何によれば、かれらの予後が必ずしも悲観するに当たらないことは、以下の表で知ることができる。

(a) 社会的生活能力 (男子)\*

学 力 修 得 程 度	家 庭 保 護	家 の 事 手 雑 役 伝 手 被 働 立	農 業 手 被 働 立	被 働 勞 働	職 職 人 工	商 店 事 務 人 員	教 医 員 師	計	
1 年 未 了	2	3	3 <sup>△</sup>	—	—	—	—	8 <sup>△</sup>	
1 年 修 了	3	2	7 <sup>△</sup> (1)	2	—	—	—	14 <sup>△</sup>	
2 年 修 了	1	6 <sup>△</sup>	12(4)	12 <sup>△</sup> (3)	13 <sup>△</sup> (3)	3(1)	—	47 <sup>△△</sup>	
3 年 修 了	—	1	7(4)	4(1)	7(2)	5(2)	—	24 <sup>△</sup>	
4 年 修 了	—	—	5 <sup>△</sup> (1)	—	8(2)	4 <sup>△</sup> (1)	—	17 <sup>△△</sup>	
5 年 修 了	—	—	—	—	3	1(1)	—	4	
6 年 了(劣)	—	—	—	—	1	—	2 <sup>△</sup> (2)	3 <sup>△</sup>	
計	6	12	34	18	32	13	2	117	
年 齡 範 囲	20—27	19—30	20—46	19—36	19—35	21—35	25—30	19—46	
婚 姻 関 係	未 婚	6	12	23	14	25	7	2	89
	既 婚	0	0	10	4	7	5	0	26
	不 明	0	0	1	0	0	1	0	2

注 △印は 30才以上の未婚者例数

括弧内の数字は既婚者例数

(b) 社会的生活能力 (女子)\*

学 力 修 得 程 度	家 及 手 庭 び 伝 保 家 も 護 事 (未 婚)	女 役 工 其 中 婦 店 他 雑 女 員 婚	教 (未 員 婚)	既 婚	計
1 年 未 了	2	—	—	—	2
1 年 修 了	3	—	—	—	3
2 年 修 了	7 <sup>△△</sup>	4 <sup>△△</sup>	—	8	19
3 年 修 了	6 <sup>△△</sup>	5	—	10	21
4 年 修 了	3	1 <sup>△</sup>	—	2	6
5 年 修 了	—	—	—	1	1
6 年 了(劣)	—	—	1	—	1
計	21	10	1	21	53
年 齡 範 囲	20—33	20—28	24	21—38	20—38

注 △印は 25才以上の未婚者例数

(c) 生存者の現在の境遇\*\*

(括弧内は%)

住 宅		総 数 208	白 痴 38	痴 愚 104	魯 鈍 17	分類困難のもの 49
自 宅 171 (82.2)	独 立 手 伝 保 護	32(15.4)	—	21	3	8
		60(28.8)	9	32	2	17
		79(38.0)	27(71.0)	32(30.8)	8(47.0)	12(24.5)
親 戚 病 院 学 園		5( 2.4)	—	3	—	2
		8( 3.8)	2	3	—	3
		3( 1.4)	—	1	—	2

## (d) 結婚年齢、男女の比較\*\*

年齢	総 数			白 痴		痴 愚		魯 鈍		分類困難のもの	
	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女
20—25	7	11	18	—	1	4	6	2	—	1	4
26—30	11	6	17	—	—	6	2	1	3	4	1
31—35	3	1	4	—	—	2	—	—	1	1	—
36—40	1	1	2	—	—	—	1	1	—	—	—
計	22	19	41	—	1	12	9	4	4	6	5

## (e) 各型別に於ける結婚率\*\*

		白 痴	痴 愚	魯 鈍	混 合 群
総	数	38	104	17	49
結 婚 数		1	21	8	11
結 婚 率		2.6	20.2	47.0	22.4

## (f) 結婚後年数と挙子数との関係 \*\*

結婚後年数	挙子数							
	0	1	2	3	4	5	6	計
1 年 以 内	6	—	—	—	—	—	—	6
1—2	2	2	—	—	—	—	—	4
2—3	4	4	—	—	—	—	—	8
3—4	—	—	1	—	—	—	—	1
4—5	—	2	—	—	—	—	—	2
5—6	—	—	1	—	—	—	—	1
6—10	2	6	2	—	—	—	—	11
10—14	—	—	2	1	—	—	1	3
15—35	2	1	1	—	1	—	—	5
計	16	15	7	1	1	0	1	41

## (g) 就 学 程 度 \*\*

(括弧内は%)

	総 数	白 痴	痴 愚	魯 鈍	混 合 群
	208	38	104	17	49
不 就 学	27 (13.0)	16 (42.0)	7 (6.7)	1 (5.9)	3 (6.1)
小 学 中 退	40 } 95	11	18	1	10
小 学 卒 業	50 } (45.7)	9	30	3	13
高 小 中 退	5	1	3	—	1
高 小 卒 業	41	1	30	5	5
中 等 学 校 中 退	13	—	5	2	6
中 等 学 校 卒 業	12 } 19	—	3	4	5
専 門 学 校 在 在	4 } (9.1)	—	2	—	2
大 学 中 退 及 在 在	3	—	2	1	—
大 学 卒 業	0	—	—	—	—
補 助 学 級	2	—	2	—	—
盲 聾 啞 学 校	6	—	2	—	4

(h) 精神薄弱者の経済状態\*\*\* (アメリカの調査)

	精神薄弱者(122)		正常者(90)	
	例数	%	例数	%
自立	50	41,0	48	53,3
夫の扶養	29	23,8	24	26,7
夫婦共稼	16	13,1	7	7,8
全自立例	95	77,9	79	87,8
部分的自立	6	4,9	2	2,2
短期の生活扶助	8	6,6	—	—
長期の生活扶助	4	3,3	—	—
無職(親と生活)	5	4,1	9	10,0
州の保護又は寡婦年金	4	3,3	—	—
全事例	122	—	90	—
自宅を所有	37	30,3	22	24,4
貯蓄あるもの	19	15,6	32	35,6

(i) 精神薄弱者の職業の種類\*\*\* (アメリカの調査)

	精神薄弱者(122)				正常者(90)			
	男	女	例数	%	男	女	例数	%
工員	17	26	43	35,2	1	19	20	22,2
不熟練労働者	5	—	5	4,1	2	—	2	2,2
家事使用人	—	8	8	6,6	—	3	3	3,3
運転手	9	—	9	7,4	3	—	3	3,3
鉄道、操車場	10	—	10	8,2	2	—	2	2,2
造船所、其他	7	—	7	5,7	6	—	6	6,7
監督(会計係等)	3	—	3	2,5	3	—	3	3,3
熟練労働者	9	1	10	8,2	7	—	7	7,8
書記、速記者	4	2	6	4,9	8	21	29	32,2
ディクタフオン操作	—	—	—	—	—	1	1	1,1
商業	3	1	4	3,3	3	1	4	4,4
公務員	1	—	1	0,8	3	—	3	3,3
専門職	1 <sup>a</sup>	—	1	0,8	1 <sup>b</sup>	2 <sup>c</sup>	3	3,3
未就職	3	—	3	2,5	1	—	1	1,1
家事	—	12	12	9,8	—	3	3	3,3

a 理髪業, b 辯護士, c 教師

\* 村松常雄, 勝野井輝美: 精神経誌, 47巻, 2号, 昭18,

この社会生活能力に関する表は、全国各地の小学校在学当時、精神薄弱と考えられたもので、現在20才以上に達している者 170名についてなされた調査によるものである。その診断は教師によるものであるから、大なる誤りはないにしても、必ずしも確実とはいえない。又精神薄弱の中、極く軽度のもの及び極めて高度のものは除かれている。

\*\* 近喰勝世：精神経誌，46卷，9号，昭17，

これらの表は大正 3年から昭和11年までの22年間に東京大学精神科外来を訪れて精神薄弱と診断された者の中，現在21才以上に達している者 1,008 名についての調査の結果である。その中，回答を寄せ調査に応じた者は311例であつた。

死亡者は311例中，103例で，重症者及び痙挛を伴う者が多い。(c)から(g)に至る表は生存者208例についての調査を示す。

結婚頻度は一般平均の同年齢者に比して低く，殊に男に於いてその差が大である。受胎頻度は回答を得た限りでは，平均より低いと思われる。

独立の生活を営んでいる者の中，約1/3は商業，他は農業，職工，会社員である。

\*\*\* Fairbank, Ruth E: Ment. Hyg. 17, 1933

参考のために米国における調査の結果を掲げる。精神薄弱者といえども，指導よろしきを得れば案外適応性を持つていることが分るのである。

## II 精神衛生に関する諸問題

### 5. 精神身体医学的に見た内科患者

内科，その他の各科に，身体的な訴えを以て訪れる患者において，その身体的障害が精神的原因による場合，又は器質的原因に精神的原因が加わってこれを増悪せしめている場合の少くないことは以前から注意されていたことであるが，近来精神身体医学 (psychosomatic medicine) が勃興し，これが科学的研究が行われるようになった。ここに掲げたのは，昭和25年 7月国立国府台病院内科外来を訪れた新患者 423名につき，内科医，精神科医が協力して調査した結果である。

この調査によれば，精神的因子の関与している場合は，アメリカの報告ほどではないが，なお30%あり一般医師に精神医学，精神衛生の素養の必要なることを示している。

(a)

著者	年 度	国別	精神的疾患(イ)	精神的+器質的 (ロ)	(イ)+(ロ)	器質的疾患
			%	%	%	%
国立国府台病院	1950	日	18	12	30	70
Weiss	1943	米	35	35	70	30
Sadler	1947	米	50	25	75	25
Allan	1948	米	27	13	40	60
Hellidag	1948	英	—	—	30	70

(b)

	精神病 P		精神神経症 PN		精神的+器質的 P+S		良性恐怖(良性 性神経質)PH		器質的疾患 S		計	
	例	%	例	%	例	%	例	%	例	%	例	%
国立国府台病院	6	1.4	30	7.1	28	6.6	61	14.4	298	70.5	423	100.0
Leher Clinic	10	1.0	75	7.5	134	13.4	187	18.7	594	59.4	1,000	100.0
	PS						PH		S			

\* 西敏夫，他 3名 (国立国府台病院)：精神身体的立場より見た内科患者に就いて (謄写印刷報告)，昭25

## 6. 不 就 学 児 童

### (a) 不 就 学 児 童・生 徒 数

文部省調査局  
(昭和26年4月)

	学齢者総数	不就学者	就学猶予者	就学免除者	教護院少年院に いる者	貧困による	居住不明	その他
学 齢 児 童	11,371,339	31,710	21,569	3,739	495	1,792	1,291	2,828
学 齢 生 徒	5,065,313	26,825	2,266	1,819	471	12,989	1,525	7,755
計	16,436,652	58,535	23,835	5,558	966	14,781	2,816	10,583

### (b) 東 京 市 不 就 学 児 童 の 精 神 医 学 的 診 断\*

区 分	男	女	計	1,156名に 対する%	
精 神 的 所 見 別					
精 神 発 育 障 碍	256	203	459	39.7	
(内訳) {	白痴	65	45	110	9.5
	痴愚	149	111	260	22.5
	魯鈍	42	47	89	7.7
性 格 異 常	49	64	113	9.8	
癲 癇	28	9	37	3.2	
精神的には著しい症状を 認めぬもの	333	265	598	51.7	
身 体 的 所 見 別					
小 児 麻 痺	48	32	80	6.9	
聾、難聴及び聾啞	38	38	76	6.6	
(附) 聴 啞	6	1	7	0.6	
盲及び視力障碍	18	18	36	3.1	
その他の身体諸疾患	88	57	145	12.6	
(内) 結核性のもの	37	26	68	5.5	
畸形その他の身体異常	29	26	55	4.7	
一般身体发育不良及び虚弱	39	31	70	6.0	
身体的には著しい症状を 認めぬもの	387	328	715	61.9	
心身共に著しい症状を認め ぬもの	210	174	384	33.0	

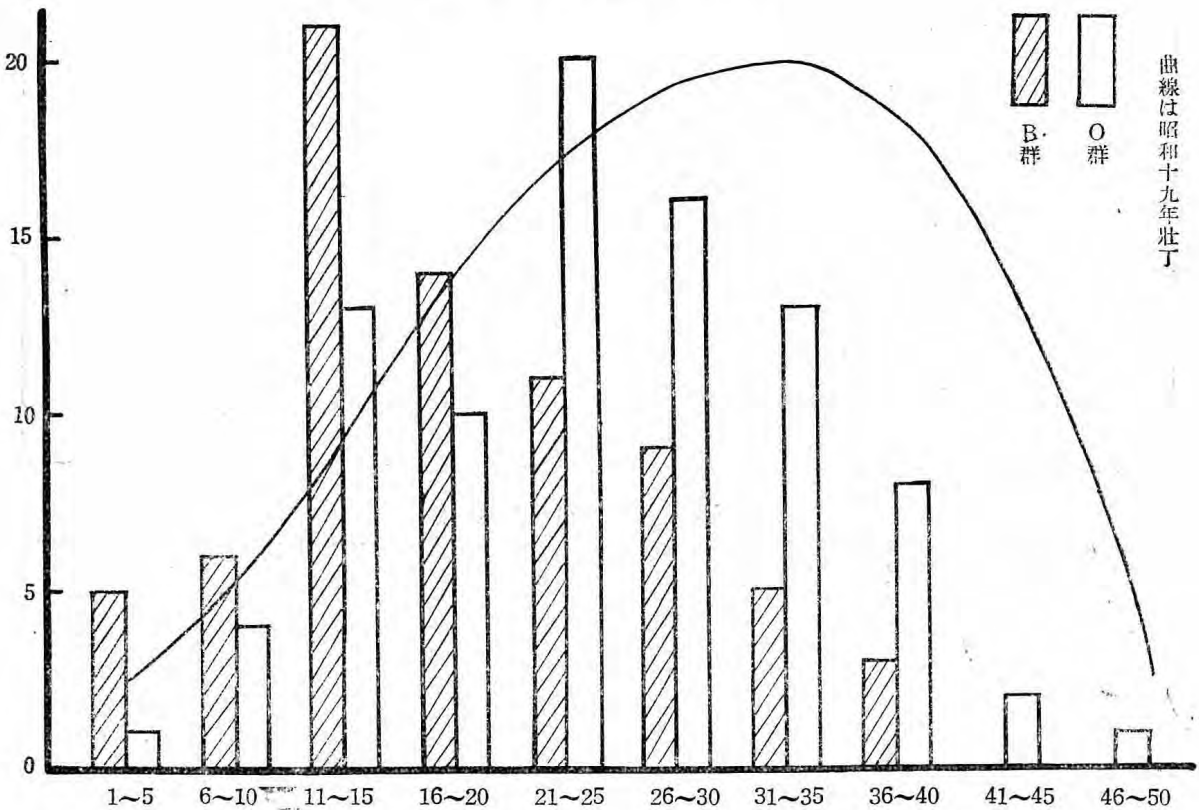
\* 吉益脩夫, 村松常雄: 精神経誌, 43巻, 1号, 昭14.

# 7. 街 娼

(a) 街娼の精神医学的診断別

	B 群	O 群	計
精神異常	26 (34.7) <sup>%</sup>	24 (27.3) <sup>%</sup>	50 (30.7) <sup>%</sup>
精神薄弱	21 (28.0)	20 (22.7)	41 (25.2)
精神病質	3 (4.0)	4 (4.6)	7 (4.3)
精神分裂病	2 (2.7)	0	2 (1.2)
高度難聴	1 (1.3)	0	1 (0.5)
正 常	48 (64.0)	64 (72.7)	112 (68.8)
計	75 (100.)	88 (100.)	163 (100.)

(b) 街娼の知能分布



\* 高木四郎他4名(国立国府台病院), 密売淫者の精神衛生的調査(謄写印刷報告), 昭25.

注 1 B群 (Butterfly) とは相手を選ばざるもの, O群 (OnlyOne) とは相手が特定なるもの。

注 2 この結果は脳研式知能検査法による。対照として用いた曲線は, 同じ検査を昭和19年度壮丁約 8万人に行つた結果である。この検査は50点満点であるが, 35点が略々平均知能を示し, 15点以下は精神薄弱である。



## 8. 浮浪児及び浮浪者

### (a) 浮浪児の浮浪動機\*

浮浪動機	人員	百分率	竹田氏**
家出	101	46.2%	41.7%
戦災孤児	60	28.8	50.0
普通孤児	28	13.6	1.4
迷児捨児	9	4.3	4.2
引揚孤児	4	1.9	2.8
生活困窮	3	1.4	
不詳	3	1.4	
計	208	100.0	100.0

### (b) 家出浮浪児の家庭状況

区分	実数	百分率
両親あるもの	23	22.5%
母なきもの	37	36.3
(父, 継母)	(24)	
(父のみ)	(13)	
父なきもの	20	19.6
(継父, 母)	(7)	
(母のみ)	(13)	
両親なきもの	22	21.6
(継母のみ)	(5)	
(養父母)	(4)	
(祖父又は祖母)	(3)	
(叔父又は叔母)	(6)	
(兄又は姉)	(4)	
計	102	100.

### (c) 浮浪児の診断別

診断別	実数	百分率
正常	109	52.4%
精神薄弱	79	38.0
(魯鈍)	(32)	(15.4)
(痴愚)	(39)	(18.8)
(白痴)	(8)	(3.8)
性格異常	17	8.1
脳性小児麻痺	1	0.5
難聴	1	0.5
癲癇	1	0.5
計	208	100.0

(d) 浮浪児の知能

知能程度	実数	百分率	竹田氏**	一般児における比率***
IQ.69以下 (精神薄弱)	72	41.6%	22.0%	2.6%
70—89 (劣等児)	49	28.3	41.5	21.2
90—109 (普通児)	43	24.9	29.5	50.6
110—129 (優良児)	8	4.6	7.0	23.2
130以上 (天才児)	1	0.6	0.	2.4
計	173	100.0	100.0	100.0

\* (a)―(d)表は高木四郎他4名、浮浪児並に児童福祉施設の精神衛生的調査(謄写印刷報告)、国立国府台病院昭23.

\*\* 竹田俊雄(愛育研究所)

\*\*\* 東大脳研究室

(e) 浮浪児收容保護状況

厚生省児童局調査  
(昭和26年12月)

		男	女	計
前年度現在施設内在所浮浪児数		3,903	897	4,801
本年中施設新規收容浮浪児数		1,540	297	1,837
本年中施設再收容浮浪児数		543	64	607
本年中解除に依り退所児童数	親族引取	535	130	665
	満年	92	19	111
	逃走	941	56	997
	死亡	13	3	16
	その他	427	89	516
	計	2,008	297	2,305
本年中変更依り退所児童数	他施設へ転所	254	61	315
	県内施設	163	12	175
	県外施設	58	17	75
	親委託	75	25	100
	族保護者引取	101	49	150
	その他	651	164	810
本年未現在施設内在所浮浪児数		3,327	798	4,125

(f) 浮浪者及び乞食の精神医学的調査\*

	I 失業 浮浪	II 下級労働						III 乞 食	IV 保 護	V 其 他	合 計			(附) 直病容 接院に 精にる 神收者					
		(イ) 流行 芸人等		(ロ) 商人 方夫等		(ハ) 拾 い屋					男	女	男(%)	女(%)	計(%)	男	女		
		男	女	男	女	男	女				男	女	男	女	男	女			
(甲) 精神 的 所 見	I. 聾啞及び聴啞	—	—	1	—	1	—	—	—	—	3(1.3)	—	3(1.1)	—	—				
	II. 精神薄弱及び其疑(計)	5	6	13	—	38	14	7	5	2	3	109(46.4)	11(42.3)	120(46.0)	3	—			
	内(イ) 白痴	—	—	—	—	1	—	5	2	—	6(2.6)	3(11.5)	9(3.4)	1	—				
	(ロ) 痴愚	3	4	—	8	30	12	3	3	1	73(31.1)	5(19.2)	78(29.9)	—	—				
	(ハ) 魯鈍	2	2	1	5	5	11	1	2	—	27(11.5)	2(7.7)	29(11.1)	—	—				
	(ニ) 程度不明	—	—	—	—	2	—	1	—	1	3(1.3)	1(3.8)	4(1.5)	—	—				
	III. 精神病質及び其疑	1	3	—	2	9	13	—	1	2	31(14.2)	1(3.8)	32(12.3)	1	—				
	IV. 精神疾患及び其疑(計)	2	3	—	4	11	14	9	2	3	66(28.1)	10(38.5)	76(29.1)	12	5				
	内(イ) 精神分裂病及び其疑(計)	—	—	—	1	4	13	6	—	2	40(17.0)	7(26.9)	47(18.0)	7	5				
	(1) 破瓜病型	—	—	—	1	3	23	4	—	1	28(11.9)	4(15.4)	32(12.3)	—	—				
	(2) 緊張病型	—	—	—	—	—	—	6	—	—	6(2.6)	0	6(2.3)	—	—				
	(3) 妄想痴呆型	—	—	—	—	1	1	4	2	—	6(2.6)	3(11.5)	9(3.4)	—	—				
	(ロ) 躁鬱病	—	—	—	—	—	—	2	—	—	0(0)	2(7.7)	2(0.7)	—	—				
	(ハ) 癲癩	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1(0.4)	0	1(0.4)	—	—				
	(ニ) 進行麻痺	1	—	—	—	1	—	1	—	—	3(1.4)	0	3(1.1)	4	—				
	(ホ) 老年痴呆及其疑	—	—	—	—	1	—	1	1	—	2(0.9)	1(3.8)	3(1.1)	—	—				
	(ヘ) 脳動脈硬化	1	3	—	1	3	—	5	2	1	16(6.8)	0	16(6.1)	—	—				
	(ト) 慢性酒精中毒	—	—	—	2	2	—	—	—	—	4(1.7)	0	4(1.5)	—	—				
	V. その他の脳疾患	—	—	—	—	2	—	3	—	—	5(2.1)	0	5(1.9)	—	—				
	VI. 精神症状の著明なるを認めず	3	7	—	5	5	13	4	1	—	34(14.5)	4(15.4)	38(14.5)	16	5				
(乙) 身 体 的 所 見	I. 視力障害 { 盲	—	—	1	—	—	—	9	2	1	10(4.3)	3(11.5)	13(5.0)	—	—				
	{ 中等度以上	—	3	—	1	—	2	3	2	—	9(3.8)	2(7.7)	11(4.2)	—	—				
	{ 聴力障害 嬰	—	—	—	1	—	—	1	—	—	2(0.9)	0	2(0.8)	—	—				
	{ 中等度以上	2	—	—	—	—	—	1	—	—	3(1.3)	0	3(1.1)	—	—				
	{ 脳性麻痺	1	2	—	1	5	—	8	2	1	20(8.6)	0	20(7.7)	—	—				
	{ 其の他	—	2	—	1	4	—	4	—	2	13(5.5)	0	13(5.0)	—	—				
	III. 四肢の諸部切断による不具	1	1	—	1	—	—	3	—	—	6(2.6)	0	6(2.3)	—	—				
	IV. その他の身体疾患	4	4	—	6	10	12	1	1	1	38(16.1)	2(7.7)	40(15.3)	—	—				
	V. 身体虚弱	—	—	—	2	1	—	6	1	—	9(3.8)	2(7.7)	11(4.2)	—	—				
	VI. 身体症状の顯著なるを認めず	3	4	—	14	43	26	24	3	4	132(53.6)	17(65.4)	150(57.5)	—	—				
	附. 心身共に著名なる異状を認めず	1	—	—	4	3	—	1	—	—	8(3.4)	1(3.8)	9(3.4)	—	—				
	人 数 (計)	10	16	1	24	0	64	2	106	20	7	2	8	1	235(100)	26(100)	261(100)	—	—

\* 村松常雄, 松本肇, 斎藤徳次郎: 精神経誌, 46巻, 2号, 昭17

この表は昭和14年12月, 東京市において一斉收容された浮浪者, 乞食261名の精神医学的調査の結果である。

# 9. 犯罪少年及び虞犯少年

昭和25年犯罪統計書  
(a) 犯罪少年の年齢層別比較 (国家地方警察本部刑事部調査統計課)

	実数	比率
14才未満	29,617	13.0%
14 - 18才	73,075	46.0
18 - 20才	55,734	36.0
計	158,426	100.0

(b) 少年虞犯行為年齢別 (自昭和25年7月 至昭和25年12月)

区分	実数	比率
14才未満	23,769	15.3%
14 - 18才	68,554	44.4
18 - 20才	62,799	40.3
計	155,122	100.0

(c) 少年虞犯行為処分別 (自昭和25年7月 至昭和25年12月)

区分	実数	比率
家庭裁判所送致	5,032	3.2%
児童相談所通告	11,252	7.3
警察限りの措置	138,838	89.5
計	155,122	100.0

(d) 少年虞犯行為別 (自昭和25年7月 至昭和25年12月)

区分	実数	比率
兇器所持	474	0.3%
暴行	1,350	0.8
けんか	2,135	1.4
たかり	1,067	1.7
家出	7,154	4.7
怠業	12,034	7.8
物品持出	4,039	2.6
金銭濫費	5,984	3.9
婦女誘惑・いたづら	929	0.6
不純異性交	3,540	2.3
飲酒	4,635	3.0
喫煙	69,113	44.6
不良交遊	4,199	2.7
不良團加盟	245	0.2
盛場はいか	12,598	8.1
不健全な娯楽	8,843	5.7
その他	16,763	10.8
計	155,122	100.0

# 10. 麻薬及び覚醒剤

## (a) 麻薬事犯検挙件数及び人員数

昭和26年犯罪統計書  
(国家地方警察本部刑事部調査統計課)

区 分	件 数	人 員
警察単独捜査のもの	928	1,424
警察と麻薬取締役官と共同捜査によるもの	76	226
麻薬取締官単独捜査のもの	1,223	1,918
合 計	2,227	3,548

## (b) 覚醒剤違反検挙件数、人員及び違反对象物資数量

区 分	実 数	
覚醒剤違反検挙件数	3,128 件	
覚醒剤違反検挙人員	2,917 人	
違反对象物資数量	注射薬 (1cc入)	20,292,415 本
	錠 剤	5,200 錠
	原 末	37.19 g

# 11. 小学校における精神衛生\*

## (a) 教師の所見(学校別)

所見		学校別		M 校	Y 校	K 校	計
A、 身体 の 障 害	視力障害	4	2	7	13		
	聴力障害	3	2	3	8		
	身体虚弱	8	6	10	24		
	疾病	2	1	0	3		
	肢體不自	4	4	2	10		
	発音不明	13	4	14	31		
	吃音	3	3	1	7		
顫	1	1	1	3			
B、 学 知 能	精神薄弱	14	8	34	56		
	成績優秀	29	29	43	101		
	成績のムラ	1	2	0	3		
	成績の変動	8	6	5	19		
C、 素 行 上 の 問 題	欠席	2	3	3	8		
	多量の癖	18	17	27	62		
	反抗ず	8	1	4	13		
	喧嘩	1	4	11	16		
	嘘盗	7	10	22	39		
D、 性 格 上 の 問 題	癖癖	6	4	13	23		
	孤独	4	3	7	14		
	鈍し	24	17	22	63		
	不安	21	20	38	79		
	敏感	8	6	22	36		
	情的	9	8	16	33		
	的	1	2	1	4		
	み	10	14	28	52		
	慢	8	6	19	33		
E、 そ の 他	協調	9	9	21	39		
	散漫	28	28	44	100		
	かたむね	2	6	9	17		
	脅迫	0	0	6	6		
	癡暴	1	0	1	2		
	乱暴	0	0	2	2		
	性的な事を口にする	0	0	2	2		
顔色よむ	0	1	0	1			
大便の粗相	0	1	0	1			
調 査 票 数	53(2.33%)	60(8.42%)	64(5.12%)	177(4.21%)			
兄 童 数	2,241	713	1,251	4,205			

(b) 調査児童の診断 (学校別)

診断		学校名	M 校	Y 校	K 校	計
知能上の問題 学習問題	精神薄弱児		21(0.94)	14(1.96)	28(2.24)	63(1.50)
	劣等学業不振		8(0.36)	25(3.51)	24(1.92)	57(1.36)
			7(0.31)	5(0.70)	8(0.64)	20(0.48)
人の格上問題	消積型		26(1.16)	29(4.07)	32(2.56)	87(2.07)
	極極型		13(0.58)	15(2.10)	23(1.84)	51(1.21)
素行上の問題	無断欠席		19(0.85)	16(2.24)	23(1.84)	58(1.38)
	家出		2	0	0	2
	弱い者いぢめ		0	0	6	6
	嘘言癖		4(0.18)	3(0.42)	15(1.20)	22(0.80)
	盗癖		2(0.09)	3(0.42)	10(0.80)	15(0.36)
不良行為			2	0	0	2
神経質性習癖	緘黙		2(0.09)	18(2.53)	23(1.84)	43(1.02)
	吃音		3	2	0	5
	夜尿		1	1	0	2
	指しゃぶり		1	1	0	2
	指しゃぶク		0	1	0	1
その他	癲癇		1	1	1	3
	中遊癖		0	2	0	2
正 常			1	3	0	4
児 童 数			2,241	713	1,251	4,205

(c) 無断欠席の主要原因

区 分	実 数
学業の負担過大	36
他児童と交われぬ	17
親の責任	8
誘惑、胃険心	8
恐怖	4
衣類、所持品に関する劣等感	1
学校ぎらい	1
不明	2

(d) 緘黙の主要原因

区 分	実 数
知能の発達遅滞	34
溺愛、過度の愛護	9
言語発達遅滞による劣等感	7
感覚器障害	5
過度の厳格	4
身体的障害	3

\* 高木四郎：学校保健の研究，第二集（日本学校衛生会編），東山書房，昭26  
M校は東京に隣接せる衛生都市，Y校は地方小都市の農村との交錯地帯，K校は純農村の小学校  
(c), (d) は最も多く認められた無断欠席及び緘黙につき，その原因を調査した結果である。

12. 自 殺

自殺者の累年比較表 (昭和25年犯罪統計書 (国家地方警察本部刑事部調査統計課))

年別	種別	既 遂		未 遂		合 計	指 数
		男	女	男	女		
昭和21年		9,278	6,021	204	183	15,686	117
昭和22年		9,128	5,787	247	244	15,406	113
昭和23年		9,929	5,912	308	318	16,477	121
昭和24年		10,961	6,151	730	579	18,421	135
昭和25年		11,791	6,577	1,936	1,406	21,710	160

注 (昭和15年……指数100)

13. 離 婚

(a) 申立人別 (最高裁判所家庭局裁判所月報 (昭和26年第7号 昭和27年第1号))

	夫	妻	計
件 数	2,508	9,678	12,186

(b) 初再婚別

	双方初婚	双方再婚	夫再婚，妻初婚	夫初婚，妻再婚	計
件 数	7,606	987	538	1,584	10,715

(c) 婚姻継続年数別

	6ヶ月未	6ヶ月満 ~1年	1~3	3~5	5~7	7~10	10年以上	計
見合結婚	263	611	2,391	1,583	982	1,097	2,583	9,510
恋愛結婚	64	176	731	466	220	194	512	2,363
計	327	787	3,122	2,049	1,202	1,291	3,095	11,873



## (d) 原因別

	夫が	妻が	計
不貞	2,614	390	3,004
虐待	1,081	44	1,125
遺棄	779	72	851
浪費	532	68	600
犯罪	166	15	181
経済破綻	612	89	701
配偶者の尊属と不和	385	500	885
疾病	200	257	457
性格相違	1,046	784	1,830
その他	420	203	623
計	7,835	2,422	10,257

## Ⅲ 施設および職員

## 14. 精神病院

わが国，アメリカおよび世界各国の精神病院施設に関する資料を次に掲げる。

わが国における狭義精神病の出現頻度を0.9%(1(a)表)とすれば，全国の精神病患者数は大よ70万と推定される。これに対する病床数はわずかに2万で，いかにこの方面の対策が貧弱であるかがわかる。

これに対し，アメリカにおいては，精神病患者推定数93万8千\*に対し，病床数68万弱である。

## (a) 全国精神病院数及び病床数

厚生省医務局調査  
(昭和27年1月現在)

地区別	精神病院	総合病院 精神科	大学附属 病院	計	病床数	在院数
北海道	(3) 9	(1) 1	(2) 2	(6) 12	704	829
青森	1	—	—	1	54	55
岩手	1	—	—	1	80	153
宮城	2	—	(1) 1	(1) 3	321	325
秋田	1	—	—	1	121	137
山形	1	—	—	1	125	118
福島	2	—	—	2	133	203
茨城	(1) 3	—	—	(1) 3	201	228
栃木	4	(1) 1	—	(1) 5	289	259
群馬	1	—	(1) 1	(1) 2	340	363
埼玉	4	—	—	4	442	467
千葉	5	(1) 1	(1) 1	(2) 7	1,039	984
東京	(2) 13	(1) 1	(1) 4	(4) 18	3,622	3,577
神奈川	(1) 6	(1) 1	(1) 1	(3) 8	986	837

新潟	新潟	2	—	(1) 1	(1) 3	350	370
富山	富山	3	—	—	3	165	244
石川	石川	5	(1) 1	(1) 1	(2) 7	436	387
福井	福井	(1) 1	—	—	(1) 1	120	153
山梨	山梨	1	—	—	1	52	77
長野	長野	5	—	—	5	326	294
岐阜	岐阜	1	—	—	1	275	290
静岡	静岡	4	—	—	4	390	408
愛知	愛知	(1) 7	—	(1) 1	(2) 8	841	—
三重	三重	(1) 1	(1) 1	—	(2) 2	343	204
滋賀	滋賀	1	—	—	1	167	184
京都	京都	(1) 3	(1) 1	(2) 2	(4) 6	615	590
大阪	大阪	(1) 7	(1) 1	(1) 1	(3) 9	1,991	1,772
兵庫	兵庫	(1) 5	—	—	(1) 5	984	901
奈良	奈良	2	—	(1) 1	(1) 3	220	202
和歌山	和歌山	(1) 1	—	—	(1) 1	200	—
鳥取	鳥取	1	—	(1) 1	(1) 2	98	92
島根	島根	2	—	—	2	65	87
岡山	岡山	1	—	(1) 1	(1) 2	257	298
広島	広島	6	—	(1) 1	(1) 7	300	414
徳島	徳島	1	—	(1) 1	(1) 2	184	239
香川	香川	1	(2) 2	—	(2) 3	171	141
山梨	山梨	2	(1) 1	—	(1) 3	150	140
愛媛	愛媛	1	—	—	1	200	200
高知	高知	2	—	—	2	181	190
福岡	福岡	(1) 7	(3) 3	(1) 2	(5) 12	896	808
佐賀	佐賀	5	—	—	5	479	467
長崎	長崎	3	(1) 1	(1) 1	(2) 5	205	130
熊本	熊本	2	(1) 1	(1) 1	(2) 4	210	274
大分	大分	3	—	—	3	171	140
宮崎	宮崎	(1) 2	—	—	(1) 2	235	—
鹿児島	鹿児島	(1) 4	—	—	(1) 4	314	276
合 計	合 計	(17) 145	(17) 17	(21) 25	(55) 187	20,078	18,527

括弧内の数は国立及び公立を示す。

(b) 各都道府県に於ける精神病院病床数比率(人口10万に対する)

厚生省医務局調査  
(昭和27年1月現在)

県別	病床数	比	県別	病床数	比	県別	病床数	比	県別	病床数	比
北海道	704	16.38	東京	3,619	57.67	滋賀	167	1.93	徳島	184	2.09
青森	54	42.09	神奈川	986	39.63	京都	645	35.18	愛媛	200	13.14
岩手	80	59.40	新潟	350	14.22	大阪	1,991	5.16	高知	181	2.02
宮城	321	19.29	富山	165	16.35	兵庫	984	28.94	福岡	896	5.42
秋田	121	9.24	石川	436	4.55	奈良	220	2.88	佐賀	479	0.50
山形	125	9.20	福井	120	1.59	和歌山	200	2.03	長崎	205	12.45
福島	133	6.44	山梨	52	6.40	鳥取	98	16.32	熊本	210	11.49
茨城	219	10.63	長野	326	15.81	島根	65	7.12	大分	171	13.63
栃木	271	17.47	岐阜	275	17.80	岡山	257	15.47	宮崎	235	21.53
群馬	340	21.23	静岡	390	15.78	広島	350	16.81	鹿児島	314	17.40
埼玉	442	20.59	愛知	841	24.80	山口	150	9.76			
千葉	1,039	46.61	三重	343	23.47	香川	171	1.79			

(c) アメリカにおける精神病院数及び病床数\*

	病院数	病床数
精神神経科病床を有する全病院	585	680,913**
連邦立病院	37	68,087
州立病院	281	562,678
郡立病院	49	26,808
市立病院	5	4,879
教会立病院	19	3,169
施療病院	38	6,201
私立病院	87	4,136
法人病院	70	4,955

\* "Statistics Pertinent to Psychiatry in the United States," compiled by Hospital Committee(1949)

(d) 世界各国における精神病院数及び收容患者の対人口比率\*

	統計年	精神病院数		精神病院入院患者数の人口一万に対する比率		統計年	精神病院数		人口一万に対する比
		公立	私立				公立	私立	
ニュージーランド	1928	7	1	49.8 %	カナダ	1928	23	—	20.9 %
南アフリカ連邦	1926	9	—	47.9	オーストリア	1928	9	—	17.2
オーストラリア	1921	30	5	41.5	フィンランド	1928	28	(37)	15.6
スコットランド	1931	44	7	39.4	イタリー	1928	139	8	13.4
ドイツ	1928	168	120	36.0	チェコスロヴァキヤ	1926	16	3	9.8
スイス	1927	24	14	31.7	日本	1934	10	118	2.64
ウェールズ及イングランド	1928	(167)	—	31.3					
スウェーデン	1927	73	4	28.1					
アメリカ合衆国	1929	254	310	27.8					
デンマーク	1929	12	—	19.5					

\* 国際連盟年報

# 15. 精神科関係職員数

(a) 全国精神病院における業務種別従業者数 厚生省医務局調  
(昭和25年12月現在)

業務種別	従業者数	業務種別	従業者数
医師	(137) 458	歯科技工士	1
歯科医師	(6) 5	レントゲン技術員	21
薬剤師	100	その他の技術員	43
保健婦	—	医療社会事業家	7
助産婦	3	事務員	598
看護婦	1,453	その他	1,195
看護人	807	計	5,713
看護助手	918	看護婦生徒	25
栄養士	71	インターン生	8

注(1) 総数は看護婦生徒とインターン生を含まない。  
括弧内は非常勤を示す。

(2) わが国の精神科専門医の正確な数は不明であるが、(b)の精神衛生鑑定医(専門の臨床経験3年以上の者の中から厚生大臣が指定する)の数及び日本精神神経学会会員数(精神科専門以外の者が相当数含まれる)から推定すれば700~800という所か。

(b) 精神衛生鑑定医数\* 厚生省公衆衛生局調査  
(昭和27年5月30日現在)

鑑定医師数 481名

北海道	36	東京都	53	滋賀県	4	香川県	5
青森県	5	神奈川県	23	東京都	25	愛媛県	2
岩手県	3	新潟県	13	大阪府	31	高知県	3
宮城県	6	富山県	4	兵庫県	14	福岡県	36
秋田県	3	石川県	14	奈良県	3	佐賀県	7
山形県	4	福井県	2	和歌山県	5	長崎県	10
福島県	6	山梨県	6	鳥取県	5	熊本県	4
茨城県	5	長野県	13	島根県	5	大分県	8
栃木県	5	岐阜県	4	岡山県	7	宮崎県	8
群馬県	4	静岡県	10	広島県	11	鹿児島県	6
埼玉県	4	愛知県	19	山口県	4		
千葉県	27	三重県	5	徳島県	4	計	481

\* 本表は精神衛生法による精神衛生鑑定医の数を示す。

(c) アメリカに於ける精神科関係職員数\*

わが国における各種専門職員数がいかに不足であることを示すために、アメリカにおける現状を示す。アメリカにおいては、これでもなお不足だといわれている。

精神科医

精神科医師会員

4,765

病院勤務者

1,718

精神神経科免許状所有者	3,118
各種クリニック勤務者	1,926
住込医 (Residents)	1,470
心理学者**	849
社会事業家 (Social workers)**	1,011
看護婦 (病院勤務有資格者)	5,545
歯科医 (病院勤務)	156
作業治療士 (Occupational therapists)	1,777
准看護婦及び看護助手 (病院勤務)	68,084
薬剤士 (病院勤務)	135
レントゲン, その他の技術員 (病院勤務)	374
栄養士 (病院勤務)	203

\* "Statistics Pertinent to Psychiatry in the United States." compiled by Hospital Committee (1949)

\*\* 心理学者は、わが国では精神病院にはほとんどいない。社会事業士 (Psychiatric Social worker) もしかり。

## 16. 全国精神衛生相談所一覧表

厚生省公衆衛生局調査  
(昭和27年11月現在)

名 称	所 在 地
北海道網走精神衛生相談所	網走市字向陽 1
青森県立臨時精神衛生相談所	八戸市大字類家字大広中寺下 30 (八戸保健所内)
山形保健所併設精神衛生相談所	山形市六日市寒河江田町 1,037 (山形保健所内)
茨城県精神衛生相談所	水戸市五軒町 251 (水戸保健所内)
栃木県精神衛生相談所	宇都宮市旭町 2の3 (宇都宮保健所内)
群馬県臨時精神衛生相談所	前橋市北曲輪町 44 (前橋保健所内)
埼玉県立精神衛生相談所	大宮市去舗 3の3,527 (大宮保健所内)
千葉県千葉精神衛生相談所	千葉市登戸町 1の128 (千葉県中央保健所内)
富山県富山精神衛生相談所	富山市総田輪 487 (富山保健所内)
長野県松本精神衛生相談所	松本市 (松本保健所内)
愛知県立臨時精神衛生相談所	愛知県西春日井郡西枇杷島町 (西枇杷島保健所内)
滋賀県立大津精神衛生相談所	大津市尾花川町 3号 1,111
舞鶴臨時精神衛生相談所	舞鶴市字堀上 198 (府立舞鶴保健所内)
大阪府精神衛生相談所	大阪市天王寺区生玉前町 38
和歌山県精神衛生相談所	和歌山市七番丁 1 (和歌山県立医科大学附属病院内)
鳥取県精神衛生相談所	米子市角盤町 2丁目
島根県立精神衛生相談所	松江市東朝日町字宮の沖 106 (松江保健所内)

岡山県岡山精神衛生相談所	岡山市大供 250
広島県尾道精神衛生相談所	尾道市久保町 108
山口県宇部精神衛生相談所	宇部市車区松山通り (宇部保健所内)
山口県岩国精神衛生相談所	岩国市今津 (岩国保健所内)
香川県精神衛生相談所	高松市松嶋町 594 (高松保健所内)
高知県精神衛生相談所	高知市北門筋西 (高知県立保健所内)
福岡県精神衛生相談所	福岡市薬院堀端 7
鹿児島県精神衛生相談所	鹿児島市山之口町 71

## 17. 全国児童相談所一覽表

厚生省児童局調  
(昭和26年1月現在)

都道府県	名 称	
北海道	北海道中央児童相談所	札幌市南4条東4の1
	旭川児童相談所	旭川市常盤町 3,100
	函館児童相談所	函館市中島町 134
	帯広児童相談所	帯広市東5条南13丁目1
	釧路児童相談所	釧路市成山町 119
青森	青森県中央児童相談所	青森市新町 59
	弘前児童相談所	弘前市元寺町 65
岩手	岩手県中央児童相談所	盛岡市内丸 83
	宮古児童相談所	宮古市藤原
宮城	宮城県中央児童相談所	仙台市北1番町 63
	石巻児童相談所	石巻市大門脇海門寺前 21
	塩釜児童相談所	塩釜市字町 14
秋田	秋田県中央児童相談所	秋田市下中城町 4
	山形県中央児童相談所	山形市旅籠町 533
	米沢児童相談所	米沢市門東町
福島	鶴岡児童相談所	鶴岡市家中新町
	福島県中央児童相談所	福島市森合町 14
茨城	茨城県中央児童相談所	水戸市南3の丸102
	栃木県中央児童相談所	宇都宮市西原町 2,569
群馬	群馬県児童相談所	前橋市小柳町 39
	埼玉県中央児童相談所	浦和市仲町 2の15
熊谷	熊谷児童相談所	熊谷市宇石原 2,214
	千葉市川児童相談所	千葉市栄町 163
東京都	東京都中央児童相談所	市川市広小路
	東京都橋児童相談所	新宿区河田町
	東京都上野児童相談所	中央区小田原町 1の1
	東京都荒川児童相談所	台東区北下谷山伏町 59 荒川区尾久町 9の3,085

	浅草	児童相談所	台東区浅草馬道 1の9
	麹町	児童相談所	千代田区永田町 1
	品川	児童相談所	品川区南品川 4の185
	杉並	児童相談所	杉並区馬橋 1丁目
	墨田	児童相談所	墨田区本所緑町
神奈川	立川	児童相談所	立川市
	中央	児童相談所	横浜市西区高島町 2の30
	横須賀	児童相談所	横須賀市大滝 67
	川崎	児童相談所	川崎市富士見町 547
	小田原	児童相談所	小田原市
新潟	新潟	中央児童相談所	新潟市川岸町 1の57
	長岡	児童相談所	長岡市今朝日町 1の1,051
富山	富山	中央児童相談所	富山市総曲輪
	高岡	児童相談所	高岡市源町
石川	石川	中央児童相談所	金沢市賢坂辻通り
	七尾	児童相談所	七尾市生駒町 31
福井	福井	中央児童相談所	福井市月見町 6
	敦賀	児童相談所	敦賀市
山梨	山梨	中央児童相談所	甲府市錦町 (山梨県立医学研究所内)
長野	長野	中央児童相談所	長野市長門町 1,097
	松本	児童相談所	松本市若松町 1,647
	長野	中央児童相談所	
	諏訪出張所		
岐阜	岐阜	中央児童相談所	岐阜市大門町 1
静岡	静岡	中央児童相談所	静岡市追手町 44の1
	浜松	児童相談所	浜松市葵町 34
	沼津	児童相談所	沼津市本田町 197
愛知	愛知	中央児童相談所	名古屋市中区季町 2の4
	豊橋	児童相談所	豊橋市
	岡崎	児童相談所	岡崎市役所内
	一の宮	児童相談所	一の宮市川田町 4の11
三重	三重	中央児童相談所	津市広明町 354
滋賀	滋賀	中央児童相談所	大津市東浦 1
	米原	児童相談所	米原市
京都	京都	府立中央児童相談所	京都市左京区吉田近衛町 26
	伏見	児童相談所	京都市伏見区舞台町 38
	福知山	児童相談所	福知山市宇裏 88の1
	舞鶴	児童相談所	舞鶴市宇堀上 198
大阪	大阪	府中央児童相談所	大阪市天王寺区夕陽ヶ丘
	十三	児童相談所	大阪市東淀川区元今里北通 2の65 (博愛社内)
	堺	児童相談所	堺市耳原町 1,920
	吹田	児童相談所	吹田市
	布施	児童相談所	布施市永和町 2の44 (布施市役所内)
兵庫	兵庫	県立中央児童相談所	神戸市生田区楠町 7の13
	摂播	児童相談所	西の宮市大甚寺町 2の13
	但馬	児童相談所	姫路市匹新町 115
	奈良	中央児童相談所	城崎郡豊岡町本 80
奈良	奈良	中央児童相談所	奈良市登大路 48

和歌山 鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿兒島

和歌山中央児童相談所  
 鳥取県立中央児童相談所  
 米子児童相談所  
 島根県立中央児童相談所  
 浜田児童相談所  
 岡山県立中央児童相談所  
 津山児童相談所  
 広島県立中央児童相談所  
 尾道児童相談所  
 三次児童相談所  
 呉児童相談所  
 山口県中央児童相談所  
 下関児童相談所  
 徳島県児童相談所  
 徳島県中央児童相談所  
 香川地方児童相談所  
 愛媛県中央児童相談所  
 宇和島児童相談所  
 高知県中央児童相談所  
 福岡県中央児童相談所  
 福岡県中央児童相談所  
 久留米児童相談所  
 八幡児童相談所  
 佐賀県中央児童相談所  
 長崎県中央児童相談所  
 佐世保児童相談所  
 練早児童相談所  
 熊本県中央児童相談所  
 八代児童相談所  
 大分県中央児童相談所  
 宮崎県中央児童相談所  
 延岡児童相談所  
 都城児童相談所  
 鹿兒島中央児童相談所  
 鹿屋児童相談所

和歌山市湊通り町 1丁目  
 鳥取市中原 1の38  
 米子市角盤町 3丁目  
 松江市殿町  
 浜田市  
 岡山市下石井 75  
 岡山市津山  
 広島市基町  
 尾道市栗原町  
 広島県双三郡三次町  
 呉市  
 山口市堅小路字築山 103  
 下関市新町 3丁目  
 徳山市御弓町  
 徳島市新倉町 3の31  
 高松市中野町 233  
 丸亀市南條町 34  
 松山市西堀端町 14  
 宇和島市  
 高知市愛宕町 2の52  
 福岡市西新町 805  
 福岡市天神町  
 久留米市西替町  
 八幡市国見町  
 佐賀市神野町 745  
 長崎市梅ヶ崎町 3  
 佐世保市上町 65  
 練早市永昌町永淵 157  
 熊本市南千反畑町 23  
 八代市長町 61  
 大分市大字上野 546  
 宮崎市恵美須町 82  
 延岡市  
 都城市  
 鹿兒島市郡元町 2,619  
 鹿屋市向江町



# 18. 児童福祉施設

(a) 児童福祉施設数及び収容定員

厚生省児童局調査  
(昭和26年1月1日現在)

(保育所,母子寮を除く)

	(国立)	(公立)	(私立)	計	収容定員	収容現在数
教 護 院	1	48	10	59	4,925	4,765
養 護 施 設	—	92	331	423	21,935	22,847
精 神 薄 弱 児 施 設	—	11	21	32	1,357	1,425
盲 児 施 設	—	21	4	25	1,240	988
ろ う ぶ ん 児 施 設	—	19	8	27	1,326	1,340
助 産 施 設	—	34	177	211	1,989	685
乳 児 院	—	36	84	120	2,873	2,027
虚 弱 児 施 設	—	6	6	12	665	458
肢 体 不 自 由 児 施 設	—	2	1	3	130	86

(b) 教護院一覽表

厚生省児童局調査  
(昭和26年1月現在)

都道府県名	公 立 別	経営主体	施 設 名	所 在 地	職員数	収 容 定 員	収 容 現 在 員
	国立		武蔵野学院	埼玉県北足立郡大門村	46	135	107
北海道	公立	道	大沼学院	亀田郡七飯村	15	60	81
北海道	公立	道	向陽学院	札幌市南の市	10	45	—
北海道	私立	財団法人	名家淵分校	紋別郡遠軽町社名淵	17	100	81
青森	公立	県	青森学園	東津軽郡新城村石江字石渡 5	7	25	30
岩手	公立	県	社陵学園	盛岡市三ツ割久保屋敷	6	40	32
宮城	公立	県	修養学園	仙台市長町越路	7	30	39
秋田	公立	県	千秋学園	秋田市巾島	11	40	40
山形	公立	県	養徳園	山形市三日町 20	7	50	39
福島	公立	県	薫陶園	相馬郡中村町中野字清水 171	6	50	52
茨城	公立	県	茨城学園	那珂郡五台村	13	60	72
栃木	公立	県	那須学園	那須郡野崎村	14	52	64
群馬	公立	県	群馬学園	前橋市天川町	10	36	37
埼玉	公立	県	埼玉学園	北足立郡上尾町上尾宿	15	65	62
千葉	公立	県	生実学校	千葉県生浜町	8	45	61
東京	公立	都	萩山実務学校	北多摩郡東村山町野口 2,823	48	260	264
東京	公立	都	誠明学園	北多摩郡霞村新町	32	159	179
神奈川	公立	県	国府実習学校	中郡国府村生沢	26	130	114
神奈川	私立	財団法人	横浜家庭学園	横浜市保土ヶ谷区釜台町	18	60	82
新潟	公立	県	新潟学園	西蒲原郡内野町山五十嵐 9952	11	65	68
富山	公立	県	富山学園	富山市針日	14	70	73

石	川	公	県	加	実	修	学	校	河	内	郡	内	灘	村	栗	ヶ	崎	18	80	78										
福	井	公	県	金	橋	学	校	園	足	羽	郡	麻	生	津	村	三	十	八	13	50	58									
山	梨	公	県	甲	陽	学	園	院	東	八	代	郡	右	左	口	村			15	50	62									
長	野	公	県	波	田	学	院	院	東	筑	摩	郡	波	田	村				21	80	79									
岐	卓	公	県	岐	卓	学	院	院	揖	斐	郡	豊	木	村	桜	大	門		9	80	54									
静	岡	公	県	三	方	原	学	園	浜	名	郡	積	志	村	有	玉			19	103	109									
愛	知	公	県	愛	知	学	園	園	名	吉	屋	市	千	種	区	田	代	町	鹿	子	殿	18	19	100	91					
三	重	公	県	国	児	学	園	園	河	芸	郡	栗	真	村					16	75	58									
滋	賀	公	府	淡	海	学	園	園	滋	賀	郡	下	坂	本	村	下	坂	本		14	65	59								
京	都	公	府	淇	陽	学	校	院	船	井	郡	園	部	町	大	学	園	部	字	中	野	70	26	150	120					
大	都	公	府	桃	山	学	院	院	京	都	市	伏	見	区	桃	山	町	遠	山	50	11	62	—							
大	阪	私	財	修	徳	学	院	院	中	河	内	郡	柏	原	町	高	井	田		50	350	241								
大	阪	私	財	生	駒	学	院	塾	中	河	内	郡	石	切	町	石	切	182		32	126	121								
大	阪	私	財	武	田	学	園	園	中	河	内	郡	柏	原	町	高	井	田	669		7	33	30							
大	阪	私	財	高	津	学	分	学	大	阪	市	天	王	寺	区	八	丁	目	東	寺	町	13	13	112	92					
大	阪	私	財	高	太	学	園	園	泉	北	郡	信	太	村						10	27	16								
大	阪	私	財	信	徳	学	院	院	布	施	市	大	学	新	家	393				8	60	55								
大	阪	私	財	公	江	学	院	院	中	河	内	郡	玉	川	町	西	岩	田	381		7	50	41							
大	阪	私	財	若	の	輪	学	院	北	河	内	郡	寝	屋	川	町	仁	和	寺		6	28	26							
大	阪	私	財	月	島	工	学	校	大	阪	市	生	野	区	田	島	町	3	の	10	10	56	41							
兵	庫	公	県	田	工	学	学	院	明	石	市	魚	住	町	清	水				43	306	262								
奈	良	公	県	自	仙	溪	学	園	山	辺	郡	都	介	野	村	友	田			—	50	35								
和	山	公	県	仙	徳	学	校	校	和	歌	山	市	塩	屋						8	45	44								
鳥	取	公	県	八	雲	学	園	校	米	子	市	福	原							15	65	65								
島	根	公	県	成	徳	学	校	校	八	東	郡	来	待	村						12	50	44								
岡	山	公	県	成	島	学	園	校	岡	山	市	平	井	2,572						45	208	281								
広	島	公	県	成	成	学	校	校	賀	茂	郡	川	上	村						21	96	110								
山	口	公	県	育	成	学	校	校	吉	敷	郡	大	内	村						16	65	75								
徳	島	公	県	徳	島	学	院	院	徳	島	市	沖	洲	町						7	50	40								
香	川	公	県	斯	道	学	園	校	高	松	市	西	浜	新	町	843				5	36	60								
愛	媛	公	県	家	庭	実	業	学	松	山	市	衣	山	町	760					9	50	55								
高	知	公	県	鏡	川	学	園	園	高	知	市	小	石	木	町					9	50	40								
福	岡	公	県	福	岡	学	園	園	福	岡	市	草	ヶ	江	本	町				27	260	132								
佐	賀	公	県	虹	の	松	原	学	東	松	浦	郡	浜	崎	町					12	60	57								
長	崎	公	県	開	成	学	園	園	長	崎	市	岩	屋	町	666					12	60	87								
熊	本	公	県	白	川	学	園	園	熊	本	市	清	水	町	打	越	476			13	60	50								
大	分	公	県	二	豊	学	園	校	大	分	市	上	野							11	50	55								
宮	崎	公	県	慎	修	学	校	校	都	城	市	一	万	城	町					13	55	64								
鹿	児	公	県	牧	之	原	学	校	始	良	郡	數	根	村	上	之	段			10	40	50								

(c) 精神薄弱児施設一覽表

都道府県	公立別	経営主	営体	施設名	所在地	最寄線及駅名	職員数	收容定員	收容現在員
北海道	公	道		もなみ学園	札幌市川沿町 744	札幌駅	12	40	30
北海道	私	財法	法人	札幌報思学園	札幌市南 14西16	札幌駅	9	30	35
北海道	私	財法	法人	富ヶ岡学園	札幌郡広島村	千歳線 北広島駅	15	65	84
宮城	公	県		宮城県亀亭園	仙台市長町越路 17	東北本線 仙台駅	7	30	19
茨城	私	個人		筑波学園	筑波郡小田村	筑波線 北条駅	6	20	22
栃木	私	個人		喬晴院	河内郡城山村下飯田 261	宇都宮駅	13	21	29
埼玉	私	宗法	教人	久美愛園	浦和市三室 1,431	浦和駅	14	75	106
埼玉	私	財法	法人	育心寮	入間郡毛呂山町毛呂本郷 38	八高線 毛呂山駅	17	40	70
千葉	私	個人	法人	八幡学園	市川市北方 492	総武線 本八幡駅	14	46	43
千葉	私	財法	法人	聖十字学園 精神薄弱児施設部	印旛郡遠山村	成田線 成田駅	7	20	12
東京	公	都		東京都養育院長浦分院	千葉県君津郡長浦村久保田代宿 80	房総西線 姉ヶ崎駅	23	55	65
東京	私	財法	法人	滝の川学園	北多摩郡保谷村保谷 6,312	南武線 矢川駅	16	60	42
神奈川	公	県		ひばりヶ丘学園	横浜市南区下永谷町 1,054	横浜市バス 浩風園前 北陸線 金沢駅	17	30	30
石川	私	個人		松原愛育学園	金沢市飛梅町	信越線 沓掛駅	8	20	25
長野	私	個人		愛泉会軽井沢治育園	北佐久郡軽井沢町	浜松駅	10	35	37
静岡	公	県		浜名寮	浜松市葵町 34	名古屋市電 中区 参宮線 津駅	11	55	58
愛知	私	財法	法人	八事少年寮	名古屋市昭和区川名山町	参宮線 津駅	5	10	12
三重	公	津市		津市児童福祉会館 精神薄弱児施設	津市大字垂水	東海道線 石山駅	19	100	64
滋賀	公	県		近江学園	大津市石山南郷町	東海道線 石山駅	7	20	20
滋賀	私	社	法人	落穂寮	大津市石山南郷町	東海道線 石山駅	7	20	20
京都	公	府		八瀬学園	京都市左京区八瀬野瀬町	京都駅	10	100	98
京都	公	京都市		京都市醍醐和光寮	京都市伏見區醍醐西川頰 26	京都駅	5	12	12
京都	私	個人		白川学園	京都市上京区鷹ヶ峰	京都駅	14	40	54
大阪	私	財法	法人	桃花塾	富田林市大字喜志 2,067	近鉄喜志駅	16	65	68
大阪	私	財法	法人	豊里学園	大阪市旭区今市町 1,758	大阪市電 今市駅	17	80	77
兵庫	私	財法	法人	三田谷治療教育院	芦屋市打出楠町	東海道線 芦屋駅	6	10	9
奈良	私	個人		成美学寮	添上郡柳生村柳生	関西線 笠置駅	—	30	27
鳥取	公	県		皆成学園	東伯郡倉吉町 3,564	倉吉線 倉吉駅	8	44	25
岡山	私	会組	職員	弘徳学園	岡山市網浜 870	山陽線 岡山駅	13	35	46
広島	公	個人		六方学園	広島市古田町	山陽線 已斐駅	21	74	81

# 19. 少年鑑別所及び矯正保護施設

法務省矯正保護局調査  
(昭和27年1月現在)

(a) 少年鑑別所一覽表

名	称	所	在	地
東	少年鑑別所	練馬区練馬	仲町	2~103
横	少年鑑別所	横浜市南区	笹下町	731
浦	少年鑑別所	浦和市常盤	町	8丁目
千	少年鑑別所	千葉市神明	町	236
水	少年鑑別所	水戸市鉄砲	町	666
宇	少年鑑別所	栃木県河内郡	姿川村字鶴田	574
前	少年鑑別所	前橋市岩新	町	高山 914
静	少年鑑別所	静岡市小鹿	町	1
甲	少年鑑別所	甲府市東光寺	町	228
長	少年鑑別所	長野市三輪	四ツ石	1,008
新	少年鑑別所	新潟市川岸	町	1~53
京	少年鑑別所	京都市左京区	吉田上阿達	町 37
大	少年鑑別所	大阪市都島区	南通	3~3
神	少年鑑別所	神戸市生田区	橋通	1~33
奈	少年鑑別所	奈良市盤若寺	町	2
大	少年鑑別所	大津市膳所	中庄	町 458
和	少年鑑別所	和歌山市元町	奉行	町 2~9
名	少年鑑別所	名古屋市中千種区	千種	町
津	少年鑑別所	津市古河		109
岐	少年鑑別所	岐阜市鷺山	中湊	1,769
福	少年鑑別所	福井市幾久	町	26~8
金	少年鑑別所	金沢市上三ノ	町	56
富	少年鑑別所	富山市長江	町	97~1
山	少年鑑別所	広島市宇品	町	472
山	少年鑑別所	山口市大字	宇野令下清水	
岡	少年鑑別所	岡山市殿井	中ノ二坪	716
鳥	少年鑑別所	鳥取市湯所	町	243
松	少年鑑別所	松江市中原	町	195
高	少年鑑別所	高松市藤塚	町	森本 87
德	少年鑑別所	徳島市徳島本	町	3~22
高	少年鑑別所	高知県長岡郡	国府村国分	8
松	少年鑑別所	松山市西立花	町	484
福	少年鑑別所	福岡市長浜	町	2~57
佐	少年鑑別所	佐賀市神野	町	字二本松 750
長	少年鑑別所	長崎市橋口	町	243
大	少年鑑別所	大分市新川	東	
熊	少年鑑別所	熊本市京町		1~14
宮	少年鑑別所	宮崎市鶴之島	町	3~31
鹿	少年鑑別所	鹿児島市鴨池	町	唐湊 1,087
仙	少年鑑別所	仙台市北六番	町	301~4
山	少年鑑別所	福島市御山	町	17
福	少年鑑別所	山形市小日川	町	1,204
山	少年鑑別所	盛岡市宿田	後	1
盛	少年鑑別所	秋田市入橋	字下入橋	1~4
秋	少年鑑別所	青森県東津軽郡	荒川村大字荒川村	字勝戸 88
青	少年鑑別所	札幌市南九条	西 18丁目	1,402
札	少年鑑別所	函館市梁川	町	六ノ甲
函	少年鑑別所	旭川市一条	通 28丁目	
旭	少年鑑別所	釧路市彌生	町	110
釧	少年鑑別所			

法務省矯正保護局調査  
(昭和27年1月現在)

(b) 少年鑑別所及び矯正保護施設数

矯正保護区	刑務所	拘置所	少年刑務所	少年院	少年観護所及び鑑別所
東京	12	1	4	12	11
大阪	6	3	2	6	6
名古屋	7	1	1	2	6
広島	5	—	1	3	5
高松	4	—	—	1	4
福岡	10	—	1	3	7
仙台	5	—	1	1	6
札幌	5	—	1	1	4
計	54	5	11	29	49
收容人員	93,030			10,959	1,748

20. 全国特殊学級数

文部省初等中等教育局調  
(昭和26年12月現在)

(a) 小学校の部

区 分	1. 性	2. 精	3. 虚	4. 精虚	5. 精不	6. 精言	7. 性精	8. 性精	9. 性精	10. 性精	11. 性精	12. 養護	13. 性精	14. 不	計
北海道	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
青森	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
岩手	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
宮城	—	1	3	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	6
秋田	—	—	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
山形	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
福島	—	2	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6
栃木	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
茨城	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
群馬	—	1	3	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	6
埼玉	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
千葉	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
東京都	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	7
神奈川県	1	1	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40
新潟	—	1	12	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16
福井	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
石川	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	7
長野	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
静岡県	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
愛知県	—	1	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	44
岐阜	—	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
滋賀	—	1	6	8	—	2	1	1	1	—	—	—	—	—	20
京都	—	4	4	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	9
大阪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
兵庫県	—	20	4	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	27

和歌山	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
岡	—	3	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
広	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
山	2	6	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
島	—	1	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
鳥	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
徳	—	1	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
高	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
愛	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
香	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
福	—	4	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
大	—	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
佐	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
宮	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
熊	—	2	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	7
長	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
鹿	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6
計	3	73	182	21	1	3	1	6	1	1	1	7	1	2				303

注 性, 性格異常者学級 虚, 身体虚弱者学級  
 精, 精神薄弱者学級 言, 言語障害者学級  
 不, 不具者学級 養護, 養護学級  
 2 字以上は以上の混合学級

(b) 中学校の部

	性	精	不	虚	精虚言	性 精	計
北海道	—	1	—	—	—	—	1
青森	—	1	—	—	—	—	1
栃木	—	1	—	—	—	—	1
千葉	—	1	—	—	—	—	1
埼玉	—	—	—	1	—	—	1
東京都	—	1	1	—	—	1	3
神奈川県	—	1	—	2	—	—	3
新潟	—	2	—	—	—	—	2
静岡県	—	—	—	2	—	—	2
愛知県	—	—	—	1	—	—	1
兵庫県	2	8	—	—	—	9	19
京都市	—	5	—	—	—	—	5
岡山市	—	—	—	1	1	—	2
広島	—	—	—	—	1	—	1
山形	1	1	—	—	—	—	2
島根	—	—	—	1	—	—	1
香川	—	—	—	1	—	—	1
福冈	—	1	—	—	—	—	1
宮崎	—	1	—	—	—	—	1
長崎	—	1	—	—	—	—	1
計	3	25	1	9	2	10	50

# 附 録

## 2). 精神衛生関係団体一覽

### (a) 世界精神保健連盟について

国際連合諸機関、各国政府並びに精神衛生に関心を有する国際有志団体と協力して、世界各国における精神衛生の水準を向上し、精神衛生に関連を持つ各種専門家の研究並びに養成を促進改善し、精神衛生の各分野における資料を蒐集し、これを普及する目的を以て、1948年、「世界精神保健連盟」(World Federation for Mental Health, WFMH)が結成され、その本部はロンドンにおかれている。

かかる目的を有する国際的機関としては、従来「国際精神衛生委員会」(the International Committee for Mental Hygiene)があり、1931年以来活動を続け、ワシントン(1930)、パリ(1937)、ロンドン(1948)と、3回の国際精神衛生会議が開かれてきた。本連盟は同委員会の主唱の下に結成されたもので、同委員会の事業を継承、拡張するものである。

本連盟は各国の精神衛生関係団体を会員(Members)として組織され、現会員は33ヵ国、59団体に及んでいる。わが国の日本精神衛生会も目下加盟を申請中である。

加盟国は次の如くである。

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリー、中華民国、キューバ、チェコスロヴァキヤ、デンマーク、エジプト、フィンランド、フランス、ギリシャ、インド、イスラエル、イタリア、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ノールウェー、ペルー、ポーランド、ポルトガル、スウェーデン、スイス、トルコ、南アフリカ連邦、英国、アメリカ合衆国、ウルグァイ、ヴェネズエラ、

本部には事務局、その他の機関がおかれ、その他年度総会(Annual Meeting)および国際精神保健会議(International Congress on Mental Health)が3~4年毎に開かれる。

刊行物としては機関誌たる会報(Bulletin)及び年報(Annual Report)がある。

会員以外に、会員たる団体に所属する個人、その他も準会員(Associates)として入会し、会報、年報の送付を受けることができる。会費は年額13スイス・フラン(又は米貨3ドル、英貨21ポンド)。

宛名は次の如くである。

Esther M. Thornton, Secretary  
19, Manchester Street,  
London, W.I.

(b) 学術研究団体

名 称	所 在 地	創立年月日	代 表 者	発行機関紙	会員数
日本精神神経学会	東京都文京区本富士町 東京大学医学部	明治35年	三宅 敏 一	精神神経学雑誌	1,079
日本心理学会	東京都文京区本富士町 東京大学文学部	大正15年	高木 貞 二	心理学研究	約 800
応用心理学会					
日本社会学会	東京都文京区本富士町 東京大学文学部	昭和 3年	林 恵 海	社会学評論	約 700
全日本特殊教育研究連盟	東京都世田ヶ谷区松原町 東京都立青島中学校	昭和25年		児童心理と精神衛生	

(c) 普及団体、その他

名 称	所 在 地	創立年月日	代 表 者	発行機関紙	会員数
日本精神衛生会	市川市国府台 国立国 府台病院内	昭和6年6月	内村 祐 之	精神衛生	340
精神衛生普及会	東京都港区飯倉6の4	昭和27年9月	工藤 昭四郎	精神衛生	
精神薄弱育成会	東京都豊島区池袋 1の812	昭和27年7月	八木沢 善 次		
日本精神病院協会	東京都文京区湯島3の1 病院会館	昭和24年7月	植松 七九郎		
全日本看護人協会	東京都世田ヶ谷区上北 沢3の1048 東京都立松 沢病院	昭和22年7月	成次和生	全看協	720
千葉県精神衛生協会	千葉市登戸町1の128千 葉県立千葉精神衛生相 談所	昭和26年10月	荒木直躬		約 170
大阪精神衛生協会	大阪市北区常安町 大 阪大学医学部				
広島精神衛生協会	呉市阿賀町 広島医科 大学医学部	昭和25年4月		広島精神衛生 協会誌	
徳島精神科学研究会	徳島市新蔵町 徳島大 学医学部	昭和24年6月	佐賀 栄次郎	精神衛生	60
鹿児島精神衛生協会	鹿児島市山之口71 鹿 児島精神衛生相談所	昭和27年12月	横山 鉄 夫		

22. 学 界 動 向

(a) 精神衛生関係図書

(1) 精神衛生全般に関する問題

- 1) 精神衛生, 村松常雄, 南山堂, 昭和25年
- 2) 学校精神衛生, 高木四郎, 明治図書, 昭和26年
- 3) 精神衛生, 西谷三四郎, 金子書房, 昭和27年
- 4) 精神衛生, 辰見敏夫, 岩崎書店, 昭和26年

(2) パースナリティと人間関係

- 5) 人格心理学, 佐藤幸治, 創元社, 昭和26年

(3) 心理測定法関係

- 6) 性格の診断, 外林大作, 牧書店, 昭和25年
- 7) 知能の診断, 外林大作, 牧書店, 昭和27年

(4) 児童及び教育に関する問題

- 8) 臨床心理学とガイダンス, 中島義友, 波多野完治  
(編), 巖松堂, 昭和26年
- 9) 教育心理学, 依田新(編), 金子書房, 昭和26年



- 10) 児童心理学, A. T. ジャーシルド, 小見山栄一, 品川不二郎, 永沢幸七訳, 金子書房, 昭和26年
- 11) 児童心理学, 山下俊郎, 光文社, 昭和24年
- 12) 乳幼児の心理学——出生より五才まで——A, ゲセル, 山下俊郎訳, 新教育協会, 昭和27年
- 13) 児童の社会心理, 瀬川良夫, 金子書房, 昭和27年
- 14) 特殊教育, 三木安正, 金子書房, 昭和27年
- 15) 児童習癖相談室, ソム, 懸田克躬訳, 昭和26年
- 16) ちえのおくれた子供の医学, 木田文夫, 牧書店, 昭和25年
- 17) アヴェロンの野生児, イタール, 古武彌生訳, 牧書店, 昭和26年
- 18) 問題の子供, A. S. ニール, 霜田静志訳, 講談社, 昭和25年
- 19) 問題の親, 同上
- 20) 問題の教師, 同上
- 21) 問題の家庭, 同上
- 22) 恐るべき学校, 同上
- 23) できる子供・できない子供——脳髓の発達と教育, 中修三, 慶応通信株式会社, 昭和26年
- 24) 精神遅滞児の生活教育, 三木安正, 牧書店, 昭和27年
- 25) おくれた子らを導いて, 三木安正, 中村興吉, 牧書店, 昭和26年
- 26) 小学校特別学級の教育, 三木安正, 熊谷紀美子, 牧書店, 昭和26年
- 27) 精神遅滞児教育の研究, 三木安正外, 牧書店, 昭和24年
- 28) 精神遅滞児教育の実際, 三木安正外, 牧書店, 昭和25年
- 29) 性格異常と精神衰弱, 木田文夫, 金子書房, 昭和26年
- 30) ガイダソスの技術, トラクスラー, 沢田慶輔訳, 同学社, 昭和25年
- 31) 異常児, 中脩三編, 医学書院, 昭和27年
- (5) 精神病理学, 神経症関係
  - 32) 人間の心, 上, 下, カールA. メニンヂャー, 古沢平作監修, 草野榮三訳, 日本教文社, 昭和25年
  - 33) 己れに背くもの, 上, 下, カールA. メニンヂャー, 古沢平作監修, 草野榮三訳, 日本教文社, 昭和26年
  - 34) 異常心理学, 井村恒郎, 加藤正明, 南博, 昭和26年
  - 35) 異常心理学, 村上仁, 岩波書店, 昭和27年
  - 36) 人間の精神生理, ジヤンドレー, 三浦岱栄訳, 白水社, 昭和27年
  - 37) 心理療法, 井村恒郎, 世界社, 昭和27年
  - 38) 夢の精神分析, フロム, 外林大作訳, 創元社, 昭和27年
- (6) 社会病理学の問題
  - 39) 生きる不安の分析, 南博, 光文社, 昭和27年
  - 40) 民間信仰, 堀一郎, 岩波書店, 昭和27年
  - 41) 俗信と迷信, 迷信調査協議会編, 技報社, 昭和27年
  - 42) 社会心理学, 南博, 光文社, 昭和24年
  - 43) 繁華街の青少年, 大藪寿一, 創版社, 昭和27年
- (7) 社会福祉事業関係
  - 44) ケースワークの理論と実際, 竹内為二, 巖松堂, 昭和27年
- (8) 産業関係
  - 45) アメリカの労務管理, 淡路田次郎, ダイアモンド社, 昭和27年
- (9) 犯罪関係
  - 46) 犯罪の心理, 中西昇, 創芸社, 昭和27年
  - 47) 犯罪心理学, 吉益脩夫, 東洋書館, 昭和23年
- (10) その他
  - 48) 体系教育心理学辞典, 城戸幡太郎, 岩崎書店, 昭和27年
  - 49) 社会福祉辞典, 社会事業短大編, 福祉春秋社, 昭和27年

## (b) 精神衛生関係論文一覽

- (1) パースナリティと人間関係
  - 1) 性格の因子分析法による研究, 肥田野直, (津田塾大学), 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
  - 2) Personality研究に於ける "Symbolの問題"
  - 3) 家庭軌跡の科学的分析, 土井正徳, (最高裁判所家庭局) 家庭裁判月報, 昭和27年1月—5月
  - 4) 継母・継子の問題, 菅野重道 (国立国府台病院精神

原谷達夫 (大阪学芸大学) 心理学研究, 22巻, 2号  
昭和27年

- 科) 児童心理学と精神衛生, 2巻, 6号, 昭和27年
- 5) 双生児, 上武正二(東京教育大学)児童心理6巻, 5, 6号, 昭和27年
- 6) 「四つの願望」理論について, 佐々木徹郎, (東北社会学研究会) 社会学研究, 6号, 昭和27年
- (2) 心理測定法
- 7) ロールシャツハテストに関する研究(其の1)長坂五朗, (大阪大学精神科)精神経誌, 54巻, 4号, 昭和27年
- 8) TATに関する研究, 和田種久(大阪大学精神科)精神経誌, 54巻, 4号, 昭和27年
- 9) ろう者の知識測定, 倉橋克(金沢大学) 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
- 10) 社会性発達テストについて, 倉橋精一(群馬大学) 児童心理と精神衛生, 3巻, 1号, 昭和27年
- (3) 児童及び教育に関する問題
- 11) 嬰児のモチベーションとフラストレーションについて, 小川再治(東京教育大学) 児童心理と精神衛生, 3巻, 1号, 昭和27年
- 12) ヒステリー(事例研究, その8) 高木四郎(国立精神衛生研究所) 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
- 13) 精神薄弱児の性格治療について臨床例を中心として, 今居忠, (京都美術専門学校) 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年
- 14) 学業不振児(事例研究 その7) 高木四郎, (国立精神衛生研究所) 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年
- 15) 精神薄弱乳幼児の精神医学的考察, 平井信義, 津守真, 上山照子, 矢吹広子, (愛育研究所) 児童心理と精神衛生, 2巻, 6号 昭和27年
- 16) 精神薄弱児の代償行動についての一実験的考察, 隠岐患彦, (岡山大学) 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
- 17) 精神薄弱児における再生再認の機制, 安倍北夫, 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年
- 18) 精神薄弱の音楽教育, 加賀谷哲郎, (東京都立水上小学校) 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年
- 19) 合宿による遅滞児の生活指導, 石井哲夫(旭出学園) 玉井牧介, (東京家政大学), 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
- 20) 精神的能力の発達に関する逐年的研究, 狩野広之, 吉川栄子, 労働科学, 28巻, 2号, 昭和27年
- 21) 乳幼児の心理 (No. 1, 2, 3) 平井信義, (愛育研究所) 小児科臨牀, 5巻, 783号, 昭和27年
- 22) 育児に必要な精神衛生, 小田正晴, (宮内庁病院) 三共薬報, 353号, 2, 昭和27年
- 23) 農村に於ける乳幼児保健指導, 楠かしこ, (山梨県) 看護, 4巻, 3号, 36, 昭和27年
- 24) 幼児期の食餌の態, 井上扶佐子(岡山病院) 看護, 4巻, 1号, 8, 昭和27年
- 25) 寝小便, 松本健太郎, (大阪日赤) 児科診療, 15巻, 5号, 351, 昭和27年
- 26) 乳幼児の保育・乳児院特集号, 小児臨牀, 5巻, 7号, 昭和27年
- 27) 徳島県に於ける育児の風習について, 平島裕正外, (徳島医大) 小児科臨牀, 12号, 昭和27年
- 28) 乳幼児の神経症, 平井信義, (愛育研究所) 臨牀内科小児科, 5号, 昭和27年
- 29) 小児神経症の研究, 管野重道, (国立国府台病院) 日本医科大学雑誌, 19巻, 1号, 昭和27年
- 30) Phenyl 焦性葡萄糖酸性精神薄弱, 小林提樹外, (慶応大学) 小児科臨牀, 5巻, 3号, 昭和27年
- 31) 精神薄弱乳幼児に対する glutamin 酸の効果, 斎藤文雄外, (愛育研究所) 小児科臨牀, 5巻, 2号, 昭和27年
- 32) 小児 Hysterie の一例, 小林真, (船岡鉄道病院) 診療の実際, 3巻, 2号 昭和27年
- 33) 嘔吐き神経症の3例, 小泉功, (日本医科大学) 15巻, 1号, 昭和27年
- 34) 乳幼児発育の研究, 詫摩武人外, (東京大学) 小児科臨牀, 5巻, 3号, 昭和27年
- 35) 小児の睡眠障碍とその環境, 大坪明德外, (日本医科大学) 臨牀小児科, 7巻, 4号, 昭和27年
- 36) 学童の精神身体医学に関する研究, 宮本公夫, (日本衛生) 公衆衛生, 111巻, 2号, 昭和27年
- 37) 精神薄弱児の治療, 村上基千代(広島医科大学) 児科診療, 15巻, 10号, 昭和27年
- 38) 小児癲癇に於ける性格障碍, 菅野重道, (国立国府台病院) 臨牀内科小児科, 7巻, 8号, 昭和27年
- 39) 精神薄弱児に関する2, 3の検索, 久保政次外, (東邦大学) 最新医学, 7巻, 7号, 昭和27年
- 40) 乳児期における精神医学的諸問題, 平井信義, (愛育研究所) 日本臨牀内科小児科, 10巻, 7号, 昭和27年

- 41) 小児不眠症及び夜驚症に対するアモバルビタール剤の効果, 大坪明德, (日本医科大学) 7巻, 5号, 昭和27年
- 42) 頭痛学童の研究, 下田又季雄, (鳥取大学) 日本内科学会雑誌, 40巻, 11号, 昭和27年
- 43) 就学劣等児と甲状腺機能, 久保政次外, (東邦医科大学) 児科診療, 15巻, 5号, 昭和27年
- 44) 夜尿症に就いての一考察, 小島正典 (慶応大学) 児科診療, 15巻, 5号, 昭和27年
- 45) 長期欠席児童生徒の環境とその実態 (文部省統計課) 教育統計, 18,
- 46) 教科別担任制で特殊学級を如何に運営するや, 田中基次, 三木竜仁, (神戸市葺合中学校) 児童心理と精神衛生, 3巻, 1号, 昭和27年
- 47) 特殊児童の社会的な生活能力の研究, 斎藤義夫, (杉並区立済美教育研究所) 児童心理と精神衛生, 2巻, 6号, 昭和27年
- 48) 教護院における木工指導の一事例, 大久保正吉, (武蔵野学院) 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年

#### (4) 精神病理学, 神経症

- 49) フラストレーションその意義と問題, (東京大学児童心理研究会) 児童心理と精神衛生, 2巻, 5号, 昭和27年
- 50) フラストレーション事態における情緒の表出について予備的考察, 東安子, (東京女子大学) 心理学論文集 (I) 昭和27年
- 51) 意志薄弱に関する研究, 新井尚賢, (東京都立松沢病院) 精神経誌, 54巻, 5号, 昭和27年
- 52) いわゆる精神身体医学, 木田文夫, (日本医科大学) 児科診療, 15巻, 10号, 昭和27年
- 53) 双生児法による神経症の研究, 諏訪望, 氏家不二雄, (東北大学精神科) 精神経誌, 54巻, 3号, 昭和27年
- 54) ゲンタルト心理学より見た強迫神経症の精神病理, (I) 清野宗佐, (大阪大学神経科) 精神経誌, 54巻, 4号, 昭和27年

#### (5) 社会病理学的研究

- 55) 人間行動の精神構造と文化因子に関する協同研究 土井正徳, (最高裁判所家庭局) 家庭裁判月報, 昭和27年6月号

- 56) 児童及び少年期の社会病理学, 柴田善守, (大阪市立大学) 家庭裁判月報, 昭和27年6月号
- 57) ある少年の深層社会病理, 三野亮 (東京家庭裁判所少年調査官) 社会事業, 4号, 昭和27年
- 58) 常盤炭坑地区における青少年不良化問題 調査及び研究—1—平賀孟, (国立精神衛生研究所) 社会事業, 35巻, 10, 11号, 昭和27年
- 59) 横浜の下層社会に関する二つの調査, 吉沢友吉, (横浜市立大学) 経済と貿易, 1号, 昭和27年
- 60) 人身売買, 山口彌一郎 (東北大学) 社会事業, 4号, 昭和27年
- 61) 未亡人の研究—実態調査—田辺繁子, (東京裁判調停員) 法律時報, 24巻, 7号, 昭和27年
- 62) 離婚研究の方法と統計的調査の一例, 山根常男 (南山大学) アカデミア, 第2輯, 昭和27年
- 63) 労務者生活の文化的側面, 西川好夫, 労働の科学, 7巻, 11号, 昭和27年
- 64) 貧困浮浪原因調査報告, 三浦, 見神, 吉田, (大阪社会事業短期大学) 社会問題研究会, 2巻, 4号, 昭和27年
- 65) 農村社会福祉と臨床社会学, 横山定雄, (国立精神衛生研究所) 社会福祉研究, 2巻, 昭和27年
- 66) アメリカ独占資本と黒人問題, 神野璋一郎, 経済評論, 1巻, 8号, 昭和27年

#### (6) 社会福祉事業関係

- 67) 蕾の中の虫—児童のケースワーカーのために, 浅賀ふさ, (厚生省) 社会事業, 9号, 昭和27年
- 68) 児童委員は何をしている, 飯尾君子他, 大阪社会福祉研究, 1巻, 7号, 昭和27年
- 69) ドイツの青少年保護事業, 城後俊明, 更生保護, 3巻, 10号, 昭和27年
- 70) スエーデンの少年保護事業, 斎藤正躬, 刑政, 63巻, 7号, 昭和27年
- 71) アメリカにおける社会事業家の俸給ならびに勤務条件調査, 西田誠行, 社会事業, 35巻, 10号, 昭和27年
- 72) 社会事業施設経営の基本原則, 瓜巢憲三, (神奈川県立中里学園長) 社会福祉研究, 第2輯, 昭和27年

#### (7) 産業関係

- 73) 職業によつておこる精神神経症障害, 小沼穂, 労働の科学, 7-9, 昭和27年

- 74) 聾生徒の適性と適職, 森一司, (神奈川県身体障害者更生相談所) 児童心理と精神衛生, 3巻, 1号, 昭和27年
- 75) ろう者の職業適性について, 倉橋克, (金沢大学) 児童心理と精神衛生, 2巻, 4号, 昭和27年
- 76) 工業労働者特に婦人労働者の生活時間構造について, (その2) 藤本武, 岡安茂子, 労働科学, 28巻, 3号, 昭和27年
- 77) 産業の精神衛生, 桐原葆見, 労働の科学, 28巻, 7~9号, 昭和27年

### (8) 犯罪関係

- 78) 女子受刑者の精神医学的研究, 近喰勝世, (東京大学神経科) 精神経誌, 54巻, 5号, 昭和27年
- 79) 最近の犯罪傾向, 寺田馨, 更生保護, 3巻, 8号, 昭和27年
- 80) 対象者の再犯分析, 西村克彦, 更生保護, 3巻, 8号, 昭和27年

### (9) その他

- 81) 心の遺伝, 岡田敬哉, (国立精神衛生研究所) 体育の科学, 2巻, 11, 11号, 昭和27年
- 82) 近年に於ける医学遺伝学の展開, 操坦道外, (九州大学) 臨床と研究, 29巻, 1号, 昭和27年
- 83) 国民優生の諸問題, 永井潜, (東京大学) 体育と科学, 2巻, 11, 12号, 昭和27年
- 84) 集団精神療法について, (第2報) 堀見太郎, 杉原芳岩谷信彦, 別府彰, 長坂五朗, 原田一彦(大阪大学精神科) 精神経誌, 54巻, 4号, 昭和27年
- 85) 新しい双生児研究法(遺伝対環境問題に関する) 岸本鎌一(名古屋大学) 環境医学研究所年報, 3, 昭和27年
- 86) 双生児に関する分散分析法の一応用, (智能の遺伝と環境について) 岸本鎌一, (名古屋大学) 環境医学研究所年報, 3, 昭和27年,
- 87) 精神薄弱の原因としての Rh 遺伝子, 溝口正美, (名古屋大学) 環境医学研究所年報, 3, 昭和27年

## (c) 学会発表業績一覧

### 日本心理学会

昭和27年5月(日本大学に於て)

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 乳幼児の心理(第7報)——神経症の発生について——平井信義, 愛育研究所</p> <p>2) 絵画と人格(その1)——幼児の自由画に関する実験的研究, 広田実, 京都大学</p> <p>3) 児童画における人格性の反映, 岡山超, 茨城大学,</p> <p>4) フラストレーション・アグレッション仮定についての一試論, 松山義則, 同志社大学,</p> <p>5) 母子家庭における心理学的諸問題——児童の家庭教育——福田泉正, 滋賀県立中央児童相談所</p> <p>6) 児童の生活慣習についての一調査——“云い習わし”としつけ——大宮録郎, 茨城大学</p> <p>7) 中学校における問題生徒, 久保舜一, 瀬川良夫, 島津一夫, 国立教育研究所</p> <p>8) 授業時における教師の不安反応について, 藤原信夫, 島根大学</p> <p>9) 教師のパーソナリティと教科の関係について(第2報告) 相川高雄, 千葉県庁</p> <p>10) 教師の不当応性, 堀内敏夫, 東京学芸大学</p> | <p>11) 双生児研究の1報告, 中村弘道, 中島昭美, 東京大学</p> <p>12) 双生児研究(第2報告)山崎正, 福井大学</p> <p>13) ガイダンスと教育との関係について, 森義孝, 愛媛大学</p> <p>14) 問題少年の性的背景について, 藤田紹憲, 和歌山大学</p> <p>15) 精神遅滞児の現実度について(その1), 山本普, 北海道大学</p> <p>16) 精神薄弱児の社会的な生活能力——幼児期における一考察——(その1)玉井收介, 東京家政大学</p> <p>17) 精神薄弱児の社会的な生活能力——幼児期における一考察——(その2)石井哲夫, 東京大学</p> <p>18) 精神薄弱児の社会的な生活能力に関する一考察——社会生活能力検査について——杉田裕, 東京教育大学</p> <p>19) 精神薄弱児の社会生活能力に関する一考察——一般職業適性検査の結果について——山口薫, 東京大学</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 20) 幼児の小集団構造, 田中熊次郎, 山梨大学
- 21) 児童の社会的反応 —— とくに家庭の影響について —— 小池準子, 広島大学
- 22) 社会的行動の発達的研究, 山本多喜司, 広島大学
- 23) 聾児の研究 —— パーソナリティの硬さについて —— 中村秀, 神戸大学
- 24) 聾幼児のモチベーションとフラストレーションについて, 小川再治, 日本聾話学校
- 25) 肢体不自由児の性格に関する研究(その1) 永丘智郎, 関東学院大学
- 26) 身体傷害者の夢(その2) —— 聾児の夢 —— 榑原清, 教育大学
- 27) ロボトミー前後の人格変容について, 村上英治, 名古屋大学医学部精神科
- 28) 性格形成に及ぼす両親の影響(Ⅱ) —— 青年期のフラストレーション —— 西平直喜, 野間教育研究所
- 29) 幼児における親子関係の心理学的研究(2) 中西昇, 大阪市立大学
- 30) 幼児における親子関係の心理学的研究(3) 中西昇, 村尾能成, 大阪市立大学
- 31) 家庭構造研究の一つの試み, 辻正三, 都立大学
- 32) Human Relation について, 宮孝一, 金沢大学
- 33) 家庭における同胞関係の分析 中村陽吉, 都立大学
- 34) 長男, 次男, 三男の研究, 村山道子
- 35) 集団成員の態度より見た Authoritarian Leadership の一研究, 江川允通, 江川美江, 早稲田大学
- 36) 性格の実験的研究(第7報告) —— 投影法による研究 —— 丸井澄子, 岐阜大学
- 37) H. T. P. の研究(第1報) 矢吹四郎, 原谷達夫, 松山安雄, 大阪学芸大学
- 38) グループ・ロールシャツハテストの一研究, 林信男, 関西学院大学
- 39) ロールシャツハテストの日本における正常人に対する標準化の試み, 児玉省, 日本女子大学児童研究所
- 40) ロールシャツハ法の適用による天才児人格特性の検診, 仲原礼二, 関西学院短期大学, 大伴茂, 関西学院大学
- 41) 精神異常者のロールシャツハテストにおける 阴暗反応の分析, 三木清子, 都立大学
- 42) ロールシャツハテスト診断における若干の問題, 祖父江考男, 東京大学人類学教室
- 43) 診断のためのロールシャツハテストの整理法, 本明寛, 早稲田大学
- 44) M. M. P. I. による精神衰弱及び精神分裂病診断スケールの発表, 塩入円祐, 慶応大学, 児玉省, 日本女子大学
- 45) 学童の問題行動に及ぼす 特定生活環境要因の影響について, 内山喜久雄, 群馬大学
- 46) Case Work を通じてみた盗癖形成の諸要因について, 佐藤棟男, 宮城県中央児童相談所
- 47) 犯罪児童の適応性, 大野桂, 千葉県中央児童相談所
- 48) 少年犯罪の地理的分布 —— 昭和25年中における警視庁管内の少年犯罪について, 佐伯茂雄, 警視庁
- 49) 統計上から見たわが国の女性犯罪者, 小熊虎之助, 明治大学
- 50) ラポール・メイキングについて, 今居忠, 京都美術専門学校

#### 第49回日本精神神経学総会

昭和27年5月(九州大学に於て)

- 1) 問題児の発生原因論 —— 特に人間関係について —— 高木四郎, 国立精神衛生研究所
- 2) 児童の言語発達障碍について, 堀要, 名古屋大学精神科
- 3) 出来ない子供を中心として, 中脩三, 九州大学精神科
- 4) 名古屋を中心としたトイレット・トレーニング, 棚橋千賀子, 鷲見たえ子, 槌田良子, 江口礼子, 名古屋大学精神科
- 5) 行動異常児の臨床鑑別における脳波所見の意義, 佐竹隆三, 佐々木重行, 竹内茂, 金沢大学精神科
- 6) 脳波の立場からみた異常児童並びにその知察, 和田豊治, 佐藤時次郎, 内ヶ崎順平, 東北大学精神科
- 7) 乳幼児の神経症に関する研究(第2報) 平井信義, 愛育研究所
- 8) 児童神経症について, 菅野重道, 国立国府台病院

精神科

- 9) 頭痛児童に関する研究, 下田又季雄, 花園直人, 鳥取大学第一内科
- 10) レオ・カナーのいわゆる早期幼年性自閉症の症例, 鷺見たえ子, 名古屋大学精神科
- 11) 蒙古症の観察, 小林提樹, 東京日赤乳児院
- 12) 夜尿症の臨床的観察とイミダリンによる治療について, 平岩甫, 名古屋市瑞穂寮
- 13) 小児精神病院の実態報告, 齋藤西洋, 東京都立梅ヶ丘病院
- 14) 工場を中心とした一山間地域における学童の精神医学的研究, 中川四郎, 群馬大学精神科, 上村安一郎 日光精鋼所附属病院 後藤 忠夫 鹿 橋 病 院
- 15) Child guidance clinic における児童鑑別, 杉原方, 別府彰, 沖野博, 大阪大学精神科
- 16) 教護児童の生物学的研究, 渡辺元, 鳥取大学神経科, 下田又季雄, 鳥取大学第一内科, 住田新平, 鳥取大学神経科
- 17) 人格の精神医学的研究 (T. A. T. による研究) 丸井文男, 名古屋大学精神科,
- 18) 物心理学としての医学 (第3報) —— 神経症における臓器選択の問題 —— 前川孫二郎 早瀬正二, 沢見春康, 小西信武, 渡辺淳, 京都大学内科
- 19) 神経症の発生機序によりみたる吃音の研究, 細越正一, 大藤圭子, 札幌医科大学神経科
- 20) 頭部外傷後の神経症の研究, 諏訪望, 島岡明, 直江善男, 中川善次, 古屋統, 東北大学精神科
- 21) 小児期罹患脳炎後精神障碍, 立津政順, 東京都立松沢病院
- 22) 恐怖症強迫観念における不安とその強迫性について, 水津謙二, 京都大学精神科
- 23) 易感性関係妄想の成立機転, 萩野恒一, 京都大学精神科
- 24) パーソナリティの力学的構造と精神異常について 竹内道真, 竹内硬, 岡山県中央児童相談所
- 25) 大阪市小学生のロールシャツハ・テスト —— 阪大式新判定規準による成績について —— 辻悟, 長坂五朗, 浜中薫香, 高橋清彦, 小牟田清博, 浅井政一, 阪大石橋分院神経科
- 26) 保護少年における T. A. T. の研究 伊藤圭一 東京多摩少年院 樋口幸吉 東京医療少年院 堀 江 恒 長岡ツル 愛光女子学院
- 27) 保護少年の一精神医学的研究 (T. A. T. の成績を中心として) 有岡巖, 大阪少年保護鑑別所
- 28) ベクスラー・ベルビュー法 (改訂案の臨床的応用) 京昂, 生駒春英, 水野清一, 野田三郎, 小池修, 田中隆明, 京都府大神経科
- 29) いわゆる邪教について, 吉川万雄, 北海道衛生部,
- 30) 養老施設在所者の精神医学的研究, 金子仁郎, 伊藤正明, 斎藤芳子, 今西史郎, 水野慶三, 奈良医科大学精神科
- 31) 保護少年の個性並びに問題行為の発生について, 斎藤誠一, 新潟大学精神科, 新潟少年保護鑑別所
- 32) 犯罪性精神異常少年の研究, 樋口幸吉, 小川洋史, 東京医療少年院,
- 33) 癲癇の分類, 本質, 成員に関する考察, 下田又季雄, 鳥取第一医科
- 34) 考古学的原人リ推測されし, 精神薄弱姉妹について, 松下兼知, 有島文雄, 福山脳病院

日 本 保 育 学 会

昭和27年5月 (名古屋市立保育専門学園に於て)

- 1) 幼児の神経症について, 平井信義, 愛育研究所, 育所
- 2) 問題児事例研究, 坂本幸子, 京都市児童院附属保 3) 保育者の精神衛生, 西本脩, 頤榮女子大学

第5回全国社会事業研究発表会

昭和27年11月 (社会事業短大に於て)

- 1) 精神遅滞児の基本的習慣に関する研究, 桜井芳郎, 愛育研究所
- 2) 児童の生活と環境調査 —— 児童の受ける社会環 境の影響について, 矢野政夫, 兵庫県民生部社会課
- 3) 農村の社会倫理からみた人身売買 (山形県村山郡に於ける実態調査) 奥山利広, 大正大学

- 4) 炭鉱地帯に於ける青少年の問題の調査について、前田栄、金谷昌子、石坂洋子、日本女子大学
- 5) 木賃宿の結核患者の生態、茂呂ミエ子、江東保健所
- 6) 身体障害者の家族関係について、浦部史、国立身体障害者厚生補導所
- 7) 浮浪者の実態調査について、越前達郎、北海道社会福祉協議会研究会
- 8) 児童福祉の基礎 —— 児童の本質について —— 大久保満彦、慶応大学
- 9) ケースワーク過程に於ける物の意義について、仲村優一、日本社会事業大学
- 10) ケースワークについて、出淵みや、杉並保健所
- 11) 被保護地帯の構成について、村田松男、東京都民生局
- 12) 赤穂町に於ける被保護者の実態 —— 町民の生活状況と被保護者の生活状況 —— 三好則克、兵庫県民生部
- 13) 医療社会事業従業者の組織活動の意義、八坂多恵子、渋谷保健所
- 14) 医療社会事業ケースの統計的観察 —— その2、法外援護適要者を中心として —— 菊地武明、大阪赤十字病院
- 15) 療医社会事業、事例研究、石井みつ、東京中央保健所
- 16) 事例研究（医療社会事業）橋本繁子、養育会病院
- 17) 被保護世帯の生活歴調査について、江沢繁、北海道社会福祉協議会研究所
- 18) 社会保隣制度の内青少年收容保護について、幸木三二、福祉法人竹馬会
- 19) 施設児逃走の社会的要因、三野亮、東京家庭裁判所
- 20) 大阪市に於ける社会福祉問題の分布（特に少年犯罪を中心として、岡村重夫、柴田善守、大阪市立大学
- 21) 職業適応の類型構成について —— とくに保護少年の場合 —— 牛窪浩、立教大学
- 22) 結核の事例研究、救仁郷よしえ、中野保健所

#### 第18回 日本民族衛生協会学術大会

昭和27年11月

- 1) 高齢双生児の研究、上出弘之、東京大学脳研究所
- 2) 群馬の一地方に於ける婚姻の形態に就いて、（第1報）結婚の地域的關係並に血族關係の頻度、佐藤千春外、群馬県安中保健所
- 3) 長野県上伊那郡藤沢村に於ける血族關係、金丸寿男外、長野県下諏訪町
- 4) シンポジウム、混血児問題について、  
講演：古屋芳雄 国立公衆衛生院長  
谷口虎年 慶応大学教授  
須田昭義 東京大学助教授  
石原房雄 東京大学教授

#### 日本応用心理学会

昭和27年7月（国立横浜大学に於て）

- 1) 育児態度と子供の性質、牛島義友、愛育研究所
- 2) 遊戯による子供の家庭の問題の分析の試み、児玉省、岡野伊津子、斎藤愛子、井出恒子、新津淳子、日本女子大学
- 3) 日本人を母親に持つ純血乳幼児と混血乳幼児との精神発達に関する比較研究（第1報）  
渡辺 徹 日本大学  
山内 茂 神奈川県児童相談所
- 4) 字の読めない児の治療教育についての一つの試み  
松本重孝、東京都民生局児童課
- 5) 小児精神医学とサイキアトリックケースワーク、  
懸田克躬、三井金吾、塩島穆子、順天堂大学
- 6) カウンセリングの問題点 —— 実践的展開を中心として、井坂行男、教育大学
- 7) 現場におけるカウンセラーの当面している問題、  
広田富治、明治中学校教諭（カウンセラー）
- 8) 青年を自殺に迫込む葛藤場面の臨床的考察、内山喜久雄、群馬大学
- 9) 神経質者の社会適応、渡辺徹、安藤公平、大村政男、日本大学
- 10) 家庭における同胞関係の分析（続報）中村陽吉、都立大学
- 11) 家庭における児童成人の關係について、辻正三、都立大学

- 12) 親と子供の関係の心理 (親から見た子供) 児玉省, 松山淑子, 日本女子大学
- 13) 親と子供との関係の心理 (子供から見た親) 児玉省, 松山淑子, 日本女子大学
- 14) 診断テストとしてのロールシャツハ法 (第1報) — 精神分裂症における — 村上英治, 名古屋大学
- 15) フラストレーション及びフラストレーション・トランスの測定 (その3) 水島恵一, 横浜少年保護鑑別所
- 16) Picture Story Test による性格の研究 (第1報) T. A. T. に投射された 神経症者精神分裂病者の性格特徴, 尾河直太郎, 日本大学
- 17) 要求水準検査によるパーソナリティの研究; (のそ3) — 異常行動の分析, 砂山延雄, 横浜少年保護鑑別所
- 18) 教育環境評定の試み, 鈴木清, 間宮武, 横浜国立大学, 品川不二郎, 辰見敏夫, 東京学芸大学
- 19) 双生児犯罪少年のケース研究 (その1) 台利夫, 横浜少年保護鑑別所
- 20) 少年不良行為の総合的分類の試み, 水島恵一, 奥沢良雄, 横浜少年保護鑑別所
- 21) テープレコーダーによるノンディレクティブカウソセリングの検討, 友田不二男, 国学院大学

## 第25回 日本社会学会

昭和27年10月 (東京大学に於て)

- 1) 児童に於けるパーソナリティーについて, — 特に反抗的態度を中心問題として — 横山定雄, 有賀薫, 国立精神衛生研究所
- 2) 就労不就学児童の生活とその家庭的条件, 雀部猛利, 神戸女子学院大学
- 3) 個人分解について, 佐々木徹郎, 東北大学
- 4) 近代社会とパーソナリティーの問題, 森好文, 大阪市立大学
- 5) 文化模倣の社会心理, 伊藤安二, 早稲田大学
- 6) 平和の条件の社会学的分析, 松野達雄, 岐阜大学
- 7) 家族関係と原爆影響, 中野清一, 広島大学, 井上彌太郎, 広島少年保護鑑別所
- 8) 心理学的社会関係論の疑問, 横山亮一, 大阪学芸大学
- 9) 行為の社会性について, 中野三郎, 高野山大学
- 10) リーダーシップについて, 加藤正泰, 中央大学
- 11) マスコミュニケーションに関する一考察, 芥川集一, 日本大学
- 12) 社会病理学研究法の一例 — 事例研究法と統計的研究法の関聯について — 桑畑勇吉, 大阪市立大学
- 13) 教育の社会的基底としてのコミュニティ — エリヤの形成に関する研究 — 高藤兵市, 北海道立教育研究所
- 14) 焼畑に依存する甲州一山村における親分子分関係服部治則, 山梨大学
- 15) 山梨北部農村に於ける親分子分関係 — 山梨県中巨摩郡清川村下福沢部落調査 — 横森俊文, 東洋大学
- 16) 対馬村落に於ける同族と身分, 中村正夫, 熊本大学
- 17) 人間生態学の現状, 矢崎武夫, 慶応大学
- 18) 交婚関係からみた農民の意識について, 中野芳彦, 新潟大学
- 19) 農業家族に於ける妻の地位, 斎藤吉雄, 東北大学
- 20) 東京における社会的成層と社会意識の調査研究 — (1) 安田三郎, 東京大学
- 21) 東京における社会的成層と社会意識の調査研究 — (2) 日比行一, 成蹊大学
- 22) 東京における社会的成層と社会意識の調査研究 — (3) 城戸浩太郎, 杉政孝, 東京大学
- 32) 東京都に於ける被保護世帯の地域的分布に関する社会生態学的一考察  
館 稔 国立人口問題研究所  
駒田 栄 国立公衆衛生院
- 24) 工場労務者の経営並び組合に対する帰属意識の測定, 高橋徹, 尾高邦雄, 東京大学
- 25) 労働条件とモラル, 岸戸護, 大阪市立大学
- 26) 近代的工場に於ける工員の欲求不満, 米山桂三, 慶応大学
- 27) 炭鉱労務者の舌情調査, 三枝幹夫, 労務科学研究所
- 28) 「技術的環境」と人間労働, 田中清助, 上野学園短期大学
- 29) 欠損家庭と少年非行, — 調査報告 — 松浦孝作, 東京学芸大学
- 30) 少年犯罪者の職業及び職業適応について, 牛窪浩, 立教大学
- 31) 習慣からとらえた少年非行ケースのとりかた, 田村健二, 東京少年保護鑑別所



## 23. 精神衛生関係の年間主要記事\*

(昭和27年1月～12月)

1月

1日 国立精神衛生研究所設立さる。

3月

W.H.O. (国際連合世界保健機構) 事務局長Dr. B. Chisolm氏は同事務局次長M. Siegel氏及び西太平洋地域事務局長 Dr. Fang氏を帯同して来朝。わが国の精神衛生行政への技術援助、国立精神衛生研究所の研究援助に関し、厚生省当局と打合せを行った。

4月

26日 国立精神衛生研究所開所式。

5月

17日 優生保護法の一部を改正する法律(141号)公布。

28日 麻葉取締法及び大麻取締法の一部改正法律(152号)公布。

6月

1日 日本精神衛生会並びに日本精神病院協会総会が東京お茶の水医師会館において開催された。

7月

1日 児童福祉法の一部を改正する法律(222号)公布

精神薄弱児育成会(手をつなぐ親の会)結成さる。

8月

W.H.O.のわが国並びに国立精神衛生研究所に対する技術援助に関し、視察打合せのため、米国国防省顧問 Dr. Torre氏来朝。

20日 精神衛生普及会発会式(東京新橋駅階上食堂において)。

10月

久しく中絶していた日本精神衛生会の機関誌「精神衛生」復刊。

12月

6日 東京YWCA会館において、精神薄弱児育成会主催の下に、「手をつなぐ親の大会」開催さる。

12日 精神衛生普及会披露茶会が、総裁高松宮殿下臨席の下に朝野の名士多数を招き、東京会館で開催された。

\* 関係学会については22(c)参照

## 24. 精神衛生年表

年号	アメリ リカ	そ の 他	日 本
1486		(フランス) アルサスに始めてテンカン患者 の病院設立	
1547		(イギリス) Bedlam 癲狂院設立	
1752	ペンシルヴァニア病院に精神病 者收容さる		
1776	(独立宣言)		
1789— 1800			(寛政年間) 永井慈現越後に癲狂院設立
1792		(フランス) Pinelの改革無拘束法の実施	
1879			(明12) 東京癲狂院(現都立松沢病院)設 立
1880		(イギリス) 精神病院アフターケア協会 (Society for the After-care of Insane) 設立	
1891			(明24) 最初の精神薄弱児收容施設 「滝野川学園」設立
1895		(オーストラリヤ) 少年審判所開設	
1896			(明29) 長野市尋常小学校に促進学級 「晩熟生学級」特設
1897		(フィンランド) 精神衛生事業	
1899	少年審判所開設	(フランス) Toulouse 開放病棟の設立提唱	
1900			(明33) 精神病患者監護法公布
1902			(明35) 精神病患者救治会設立
1904	W. Healy シカゴ少年審判所 において不良少年の研究を開始		
1905		(フランス) Binet-Simon 知能検査法発表	
1903	ニューヨーク Bellevue 病院 精神科にソーシャル・ワーカー 置かる		
1907	ボストンで訪問教師 (Visiting Teacher) 運動開始		(明40) 東京高師附属小学校に始めて補 助学級特設

1908	Clifford W. Beers 自殺伝出版 コネチカット州精神衛生協会 (Conneeticut Society for Mental Hygiene) を組織, ニューヨーク Bellevue 病院に児童クリニック (Children's Clinic)開設		
1909	Beers アメリカ精神衛生委員会 (National Comm ittee for Mental Hygiene) を組織		
1914	Simmons 大学社会事業部で精 神医学的ソーシャル・ワーカー の専門的養成を開始		
1917			(大6) 国立感化院令公布
1918	B. Glueck ニューヨーク州 Westchester 郡に近代的 児童クリニックを開設		
1919			(大8) 精神病院法公布
1920		(フランス) Toulouse 精神衛生連盟 (La Ligue d'Hygiene Mentale) を組織	
1921	Thom の指導により Boston Habit Clinic 設立		
1922	連邦財団、模範児童指導クリ ニック (Demonstration Child Guidance Clinic 開設		(大11) 少年法, 矯正院法公布
1926			(昭元) 日本精神衛生協会発足
1928	アメリカ精神衛生財団 (American Foundation for Mental Hygiene)設立		(昭3) 日赤主催精神衛生展覧会
1929			(昭4) 教護法公布
1930		第一回国際精神衛生会議 (International Congress on Mental Hygiene) ワシントンで開催	(昭5) 呉秀三教授同会議の名譽副会頭 となり三宅鉦一、植松七九郎両 教授出席
1931			(昭6) 日本精神衛生協会正式成立 雑誌「精神衛生」発刊
1933			(昭8) 少年教護法公布
1936			(昭11) 東大脳研究室に「児童研究部」開 設京橋保健館(現中央保健所)に 「精神衛生相談部」開設
1937		パリで第2回国際精神衛生会議 開催	

1940			(昭15) 国民優生法公布
1943			(昭18) 精神厚生会成立(精神病者救治会・日本精神衛生協会及び日本精神病院協会合併)
1946	精神衛生法 (Mental Health Act) 公布 アメリカ精神衛生研究所 (National Institute of Mental Health) 設立		
1947			(昭22) 児童福祉法公布
1948		ユネスコ及びW.H.O.の協力機関として「精神健康世界連合」(World Federation for Mental Health) 設立 ロンドンに第1回精神健康国際会議 (International Congress on Mental Health) 開催	(昭23) 優生保護法公布 国立国府台病院精神衛生センターとして発足 国府台病院に始めて精神医学的ソーシャル・ワーカー置かる 同病院に児童部開設
1949		精神健康世界連合の機関雑誌 (Bulletin of the World Federation for Mental Health) 発刊	
1950			(昭25) 精神衛生法公布
1951		パリに第2回精神健康国際会議開催	(昭26) 村松常雄教授同会議に出席
1952			(昭27) 国立精神衛生研究所開設 精神厚生会「日本精神衛生会」と改称

---

精神衛生資料

編集責任者

高木四郎

発行所

千葉県市川市国府台町1の2

印刷所

国立精神衛生研究所

東京都北区滝野川町 881

五宝堂印刷株式会社

電話王子(81) 6105番

(非売品)

---

